FUJIFILM

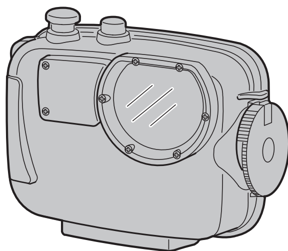
FinePix Z100fd用

防水プロテクター

for FinePix Z100fd

Waterproof Case

WP-FXZ100



使用説明書
防水プロテクター WP-FXZ100　保証書付

OWNER'S MANUAL
WP-FXZ100 Waterproof Case

MODE D'EMPLOI
Le caisson étanche WP-FXZ100

BEDIENUNGSANLEITUNG
WP-FXZ100 Unterwassergehäuse

MANUAL DEL USUARIO
WP-FXZ100 La caja estanca

日本語
ENGLISH
FRANÇAIS
DEUTSCH
ESPAÑOL

BL00654-100

安全上のご注意

このたびは、弊社製品をお買上げいただきありがとうございます。ご使用の前に必ず本「使用説明書」、特にこの「安全上のご注意」と、デジタルカメラ本体の「使用説明書」をよくお読みの上、正しくお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

■表示内容を無視して誤った使いかたをしたときに生じる危害や障害の程度を次の表示で説明しています。

 警告	この表示の欄は「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。
 注意	この表示の欄は「障害を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性が想定される」内容です。

■お守りいただく内容の種類を次の絵表示で説明しています。

	このような絵表示は、気をつけていただきたい「警告」や「注意」の内容です。
	このような絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。
	このような絵表示は、必ず実行していただく「強制」内容です。

 警告


分解禁止

分解や改造は絶対にしない。
水もれの原因になります。



不安定な場所に置かない。
バランスがくずれて倒れたり落下したりして、けがの原因になります。



指定外のバッテリーを使用しない。
火災の原因になります。



指定外の方法でバッテリーを使用しない。
バッテリーは指標に合わせて入れてください。



バッテリーを分解、加工、加熱しない。
バッテリーを落としたり、衝撃を加えない。
バッテリーをショートさせない。
バッテリーを金属製品と一緒に保管しない。
バッテリーを指定充電器以外で充電しない。
バッテリーの破裂・液もれにより、火災・けがの原因になります。



小さいお子様の手の届くところに置かない。
けがの原因になります。



ストラップを持ったまま本製品を振り回さない。
自分や人に当って、けがをする原因になります。



炎天下または直射日光の当たるところに放置しない。
内部の気圧が上昇し、ふたが跳ね上がる可能性がありけがの原因になります。



本製品用のシリカゲルや専用グリスを口に入れたり、食べたりしない。
口に入れたり、食べた場合はただちに医師と相談してください。

⚠ 注意



本製品を落としたり、岩など固いものにぶつけたりしない。
ひび割れが発生し、水もれの原因になることがあります。



お手入れの際や長時間使用しないときは、バッテリーを外す。
液もれや火災の原因になることがあります。



フラッシュを人の目に近づけて発光させない。
一時的に視力に影響することがあります。特に乳幼児を撮影するときは気をつけてください。



砂、ほこり、ゴミの多いところで開閉しない。
Oリングに付着すると、水もれの原因になることがあります。



異常に高温になるところ、異常に温度が低くなるところに本製品を放置しない。
故障の原因になることがあります。



水もれがあった場合は、カメラよりバッテリーを速やかに取り外す。



水深40mを超える水中では使用しない。
故障の原因になることがあります。

目次

はじめに

■ご使用前に必ずお読みください

- 本製品の故障に起因する付随的損害（撮影に要した諸費用および撮影により得るであろう利益の喪失など）については補償いたしかねます。
- この防水プロテクターは、水深40m以内の水中で使用するよう設計されています。取り扱いには十分にご注意ください。
- 防水プロテクターのご使用前の取り扱い方法と事前のチェック、メンテナンス、ご使用後の保管方法はこの使用説明書の内容をよくご理解の上、正しくご使用ください。
- 万一、防水プロテクター取扱上の不注意により水もれ事故を起こした場合、内部機材の損傷、および付随的損害については補償いたしかねます。
- 使用時の事故（人身・物損）の補償はいたしかねます。

ダイバーズ保険のご案内

万一の水もれ事故によるカメラの損傷や、使用時の事故（人身・物損）に備えて、ダイバーズ保険への加入をおすすめします。詳しくは保険会社または保険代理店などにお問い合わせください。

付属品

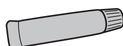
- ハンドストラップ（1本）



- 開閉ノブロック外し／Oリング取外し用ピック（1枚）



- 専用グリス（1個）

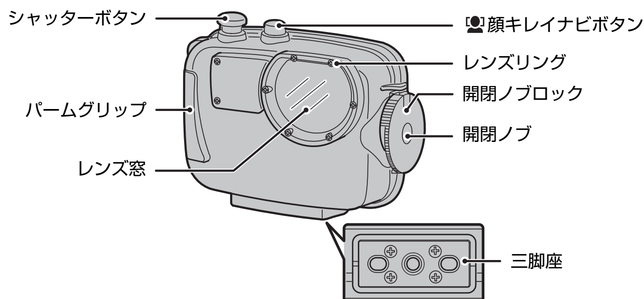


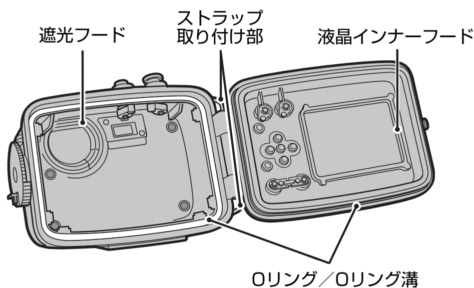
- 使用説明書（本書1部）
- クイックメンテナンスガイド（1部）
- ご注意シート（1部）

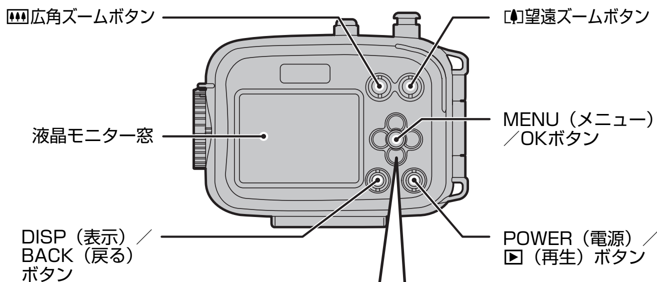
- シリカゲル（3個）



各部の名前


シャッターボタン
顔キレイナビボタン
レンズリング
開閉ノブブロック
パームグリップ
開閉ノブ
レンズ窓
三脚座


遮光フード
ストラップ
取り付け部
液晶インナーフード
Oリング／Oリング溝



▲▼◀▶（十字）ボタン

【撮影時】

◀/🌷（マクロ）ボタン

▶/⚡（フラッシュ）ボタン

▲/((✋))（ブレ防止）ボタン

▼/🕓（セルフタイマー）ボタン

【再生時】

▲/🗑（ダイレクト消去）ボタン

- 操作部は、カメラの各操作に対応しています。カメラの使用説明書で、機能をご確認ください。
- ご購入時は液晶モニター窓に保護シートが付いています。ご使用前に、保護シートをはがしてください。
- カメラの赤外線通信機能を使う場合には、防水プロテクターを外してご使用ください。防水プロテクターに入れた状態では、通信できない場合があります。

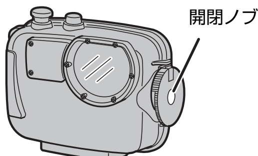
防水機能を事前にチェックする

カメラに装着する前に浸水テストをする

カメラに装着する前に水もれがないか必ずご確認ください。

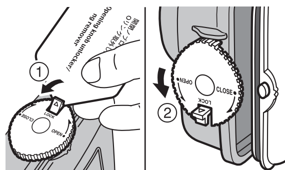
1 防水プロテクター全体を見回して、ひび割れ、変形がないか確認します。

2 開閉ノブロック外し／Oリング取外し用ピックを使い、防水プロテクターを開けます。





開閉ノブロック外し／Oリング取外し用ピック

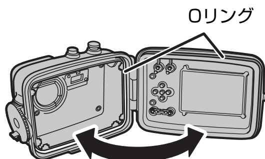


① 開閉ノブのロックを外します。
② 開閉ノブを回して（OPEN方向）防水プロテクターを開けます。

(!) 防水プロテクターを開けるときは、指や手のひらを挟みこまないようにご注意ください。

(!) 開閉ノブロック外し用ピックが無いときは、ストラップの止め具で代用できます（→15ページ）。

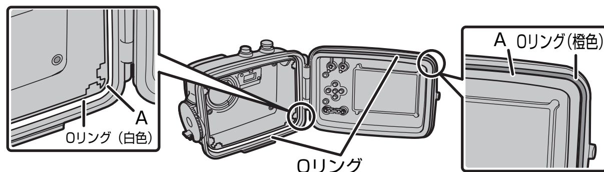
3 内部を確認します。



- 本体のひび割れ（特にOリング付近）
- Oリングがきちんと装着されているか（正しいOリングの取り付け方は23ページをご参照ください）
- Oリングの傷、ひび割れ、変形、変質、ねじれ、はみ出しなど
- Oリングに砂、ゴミが付着していないか

4 繊維くずの出ないやわらかい布などで、Oリングや0リング密着面（図A部分）に付着した異物をふき取ります。

ティッシュペーパーでふき取る際は、細かな繊維くずが残ることがあるのでご注意ください。

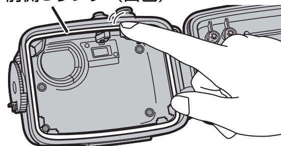


日本語

5 Oリングの取り付けを確認します。

前側Oリング（白色）の取り付けを確認します。

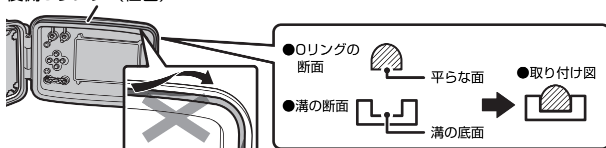
指先でOリングをなぞり段差がないことを確認します。段差がある場合はOリングがねじれている可能性があります。23ページを参照して取り付け直してください。



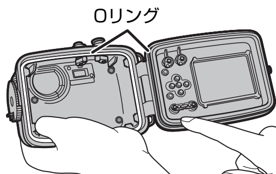
Oリングのねじれやはみ出し、異物の挟み込みがあると水もれの原因になります。

後側Oリング（橙色）の取り付けを確認します。

取り付けが不完全な場合は、24ページを参照して取り付け直してください。

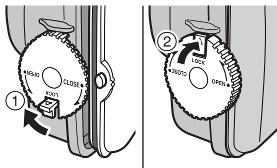


6 問題がなければきれいに洗った指先に付属の専用グリスを適量取り、Oリングの表面に伸ばしながら、Oリング全体が適度に湿る程度に塗布します。



- 専用グリス以外は使用しないでください。
- 塗布後、Oリングに砂、ゴミが付着していないか確認してください。

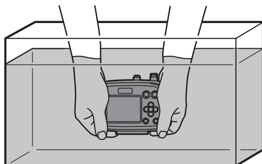
7 防水プロテクターを閉じます。



① 防水プロテクターを閉め、開閉ノブを回して（CLOSE方向）密封します。
② 開閉ノブのロックをかけます。

- 防水プロテクターを閉めるときは、指や手のひらを挟みこまないようにご注意ください。

8 水槽やお風呂などに浸して、水もれしていないかを確認します。確認方法については、13ページをご参照ください。



もし水もれが確認されたら…

① ただちに防水プロテクターを水中から引き上げ､水分をふき取ってください。
② 防水プロテクター本体のひび割れ、Oリングに異物の付着、傷、ひび割れ、変形、変質、ねじれ、Oリング溝に異物の付着がないか確認します。
③ 確認後、異常が見られない場合は8ページの手順からやり直してください。

- 防水プロテクターに異常があった場合はただちに使用を中止し、富士フイルム修理サービスセンター、またはお近くの弊社サービスステーションに修理をご依頼ください。

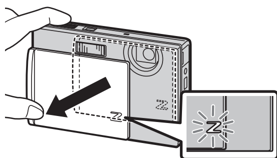
防水プロテクターをカメラに装着する

装着前に次のことをご確認ください。

- 水中撮影中にバッテリー切れにならないよう、バッテリーをあらかじめフル充電しておきましょう。
  使い切ったバッテリーのフル充電時間　NP-45：約3時間
- メディアの撮影可能枚数が十分にあることをご確認ください。
- カメラからストラップを外してください。ストラップをカメラに付けたまま防水プロテクターを装着すると水もれの原因になります。

日本語

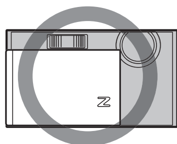
1 カメラの電源を入れます。

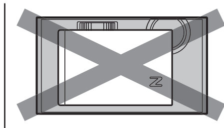


レンズカバーを開きます。

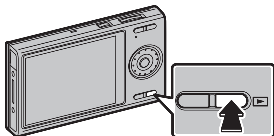
(!) レンズカバーを開ける場合は、レンズに触れないようにご注意ください。

(!) レンズカバーが確実に開いていることをご確認ください。確実に開いていないと電源が入らない場合があります。



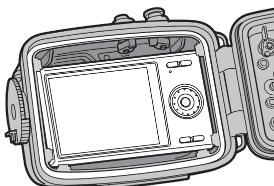


2 カメラの電源を切ります。



POWER（電源）/▶（再生）ボタンを押して再生モードにし、再生ボタンを長押しします。

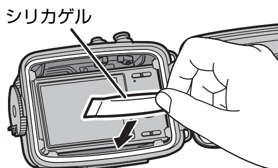
3 防水プロテクターを開けて（→8ページ）、カメラをセットします。



カメラがしっかり止まるまで防水プロテクター内に滑り込ませるようにセットします。

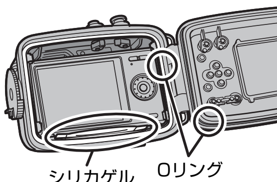
- カメラをセットするときは、カメラの向きに注意してレンズカバーが開いていることを必ずご確認ください。レンズカバーを閉じた状態で装着すると、浸水の恐れがあります。また水中撮影が出来ません。
- 防水プロテクターを開けるときは、指や手のひらを挟みこまないようにご注意ください。

4 シリカゲルを、カメラ底面と防水プロテクターの間に入れます。



- シリカゲルは必ず奥まで入れてください。奥まで入れずに防水プロテクターを閉めるとシリカゲルがOリング部に挟まり、水もれの原因になります。

5 カメラと防水プロテクターが正しくセットされているか確認します。



- シリカゲルが本体からはみ出していないか
- OリングやOリング溝、Oリングに合わさる防水プロテクター本体側部にゴミや髪の毛などの異物が付いていないか
- カメラが防水プロテクターに対して曲がってセットされていないか

6 問題がなければ、防水プロテクターを閉めます（→10ページ）。

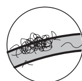
→ POWER（電源）/▶（再生）ボタンを押し、シャッターボタンを押してカメラの電源が入るか確認して下さい。

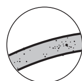
(!) 防水プロテクターを閉めるときは、指や手のひらを挟みこまないようにご注意ください。

水もれ事故を防ぐために

Oリングに異物が付着している場合は浸水の原因になります。21ページを参照して異物を取り除いてください。異物が取り除けないときは新しいOリングと交換してください。


毛


繊維

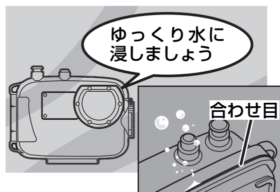

砂

日本語

最終テストをする

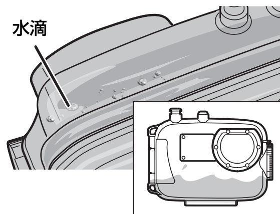
カメラに防水プロテクターを装着した状態で浸水テストを行います。水もれがないか確認しますので、必ず行ってください。
真水の入った水槽やお風呂などに浸したまま水もれがないか確認します。ただちに水中から引き上げられるよう十分に注意して確認してください。

1 30秒程度水に浸します。



- 水に入れたときに防水プロテクターの合わせ目から連続して気泡が出ていませんか？
- 実際に水中でボタン類を操作してみましょう。
- 写真も撮ってみましょう。

2 防水プロテクターをゆっくりと水から引き上げよく確認します。



- 防水プロテクター内の合わせ目付近に、水滴が付いていませんか?
- 防水プロテクター内に水がたまっていませんか?

もし水もれが確認されたら…

① ただちに防水プロテクターを水中から引き上げ、水分をふき取ってください。

② 防水プロテクターからカメラを取り出してください。カメラ本体に水滴が付着している場合はただちにふき取ってください。

> ⚠ 防水プロテクターからカメラを取り外すときは、カメラを落とさないようレンズ部を下に向けて防水プロテクターを開けてください。また、防水プロテクターを開けるときは、指や手のひらを挟みこまないようにご注意ください。

③ 防水プロテクター本体のひび割れ、Oリングに異物の付着、傷、ひび割れ、変形、変質、ねじれ、Oリング溝に異物の付着がないか確認します。

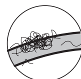
④ 確認後、異常が見られない場合は8ページの手順からやり直してください。

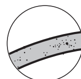
> ⚠ 防水プロテクターに異常があった場合はただちに使用を中止し、富士フイルム修理サービスセンター、またはお近くの弊社サービスステーションに修理をご依頼ください。

> ⚠ カメラ本体に水が入った場合はただちに使用を中止し、お近くの弊社サービスステーションに修理をご依頼ください。異常があるまま使用すると発火や感電の原因になりますので絶対に使用しないでください。

Oリングに異物が付着している場合は浸水の原因になります。21ページを参照して異物を取り除いてください。

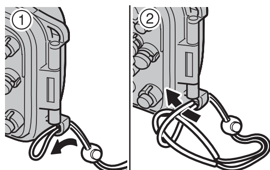

毛


繊維


砂

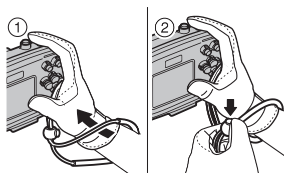
ストラップを取り付ける

1 防水プロテクターにストラップを取り付けます。



①②の順にストラップを取り付けます。

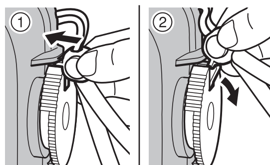
2 ストラップを手首に固定します。



① ストラップに手首を通します。
② 長さ調節止め具をスライドし、落とさないように手首に固定します。

止め具で防水プロテクターを開ける

防水プロテクターを開けるとき、開閉ノブロック外し用ピックがお手元に無い場合に、止め具で代用できます。



① 止め具の突起部分を図の位置にはさみ込みます。
② ロックに引っ掛けて起こします。

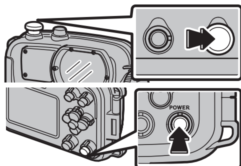
(!) ストラップ止め具をOリングの取り外しには絶対に使用しないでください。Oリングにキズやゴミがつき、浸水の原因になります。

日本語

撮影する

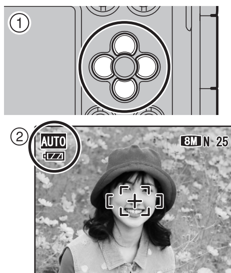
- 水深40mまで使用可能です。
- 操作部は、カメラの各操作に対応しています。カメラの操作方法や機能についてはカメラ本体の使用説明書を参照してください。

1 カメラの電源を入れます。



POWER（電源）/▶（再生）ボタンを押し、シャッターボタンを押します。

2 モードを設定します。



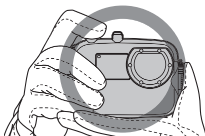
① 十字ボタンを操作して撮影モードを設定します。
② 液晶モニター窓で撮影モードの確認をしてください。

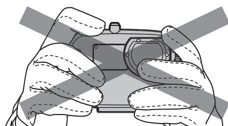
水中で撮影する前に地上で試し撮りをしてください。

ⓘ 十字ボタンで撮影モードを設定するときは、必ず液晶モニター窓で設定した撮影モードをご確認ください。

3 両手で防水プロテクターをしっかり支えて構えます。

ⓘ レンズ窓、フラッシュ部に指やストラップがかからないようにしてください。ピントが合わなかったり、適正な明るさで撮影できないことがあります。





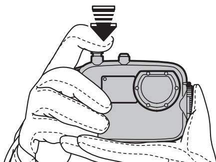
4 撮影します。

① シャッターボタンを半押しし てピントを合わせます。

② 半押しのままさらにシャッターボタンを押し込むと撮影されます。

(!) シャッターボタンを軽く押すと途中で少しとまるところがあります。そこまで押すことを半押しといいます。半押ししたときにピントと明るさが決まります。

(!) 動画撮影は半押しできません。





水中撮影モードについて

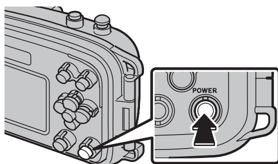


カメラのモード設定を“水中”にすると、海の青さを鮮やかに撮影できます。

(!) 設定方法についてはカメラ本体の使用説明書をご参照ください。

撮影が終わったら（保管方法）

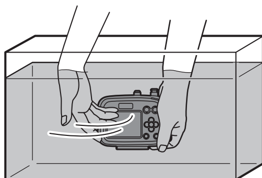
1 カメラの電源を切ります。



POWER（電源）/▶（再生）ボタンを押して再生モードにし、再生ボタンを長押しします。

- (!) 必ずカメラの電源が切れていることを確認してください。

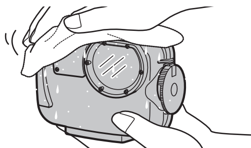
2 撮影終了後すぐに、容器に真水を張り海水の塩抜きをします。



このとき手で水を送るようにして、細部の塩分を落とします。

- (!) 塩抜きを行わないと、サビや各部の動きが悪くなるなどの原因になります。

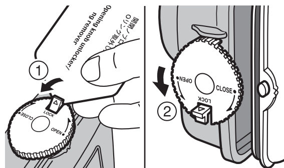
3 防水プロテクターに付いている水滴をていねいにふき取ります。

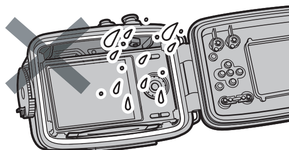


特に防水プロテクターの合わせ目の水滴は、ていねいにふき取ってください。

- (!) 繊維くずの出ないやわらかい布などをご使用ください。
- (!) シャッターボタンや開閉ノブなど細かい部分の水滴もしっかりふき取ってください。

4 カメラを防水プロテクターから取り外します。





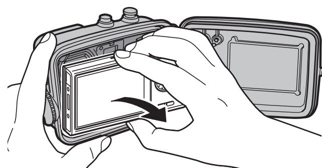
① 開閉ノブのロックを外します。
② 開閉ノブを回して（OPEN方向）カメラに水滴がかからないように防水プロテクターをゆっくり開けます。

(!) 防水プロテクターを開ける際は防水プロテクター内部やカメラに水滴が付かないように手や髪の毛などが十分に乾いていることを確認してください。

(!) 防水プロテクターを開けるときは、指や手のひらを挟みこまないようにご注意ください。

(!) ぬれた手でカメラやバッテリーに触れないでください。

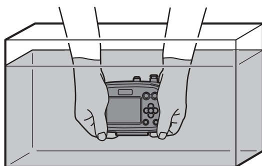
(!) 水しぶきや砂のかかるところで防水プロテクターの開閉はしないでください。



③ カメラを防水プロテクターから取り外します。

(!) 防水プロテクターからカメラを取り外すときは、カメラを落とさないようレンズ部を下に向けて防水プロテクターを開けてください。

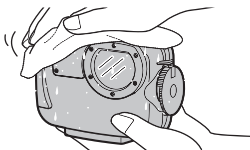
5 カメラを外した状態で、Oリングに水滴、異物がないことを確認して防水プロテクターを閉め、開閉ノブを回して（CLOSE方向）密封します。もう一度、真水でよく洗います。



水の中でボタン類をかるく操作し、塩分を取り除くようにしてください。その後、真水に1時間程度つけておくことをおすすめします。

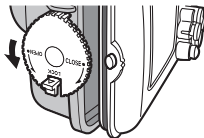
- 十分に塩分を落とさずに保管すると、塩の結晶により開閉ノブなどが動かなくなります。また、サビの原因になります。
- 防水プロテクターを閉めるときは、指や手のひらを挟みこまないようにご注意ください。

6 防水プロテクターに付いている水滴をていねいにふき取ります。



- 繊維くずの出ないやわらかい布などをご使用ください。
- シャッターボタンや開閉ノブなど細かい部分の水滴もしっかりふき取ってください。

7 防水プロテクターを少し開けて、風通しのよい日陰で乾燥させてください。乾燥後は、直射日光の当たらないところに保管してください。



- 温風機などの熱風や直射日光に当てて乾燥させないでください。

長期間使用しないときは、Oリングを取り外して保管してください。取り外し方は21ページをご参照ください。

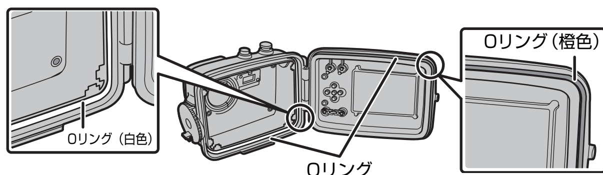
メンテナンス

使用後のメンテナンス

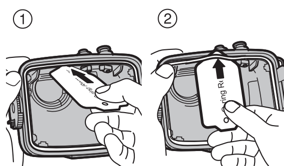
日本語

防水プロテクターを使用したあとに必ず行ってください。次回使用するときのために、Oリングに"異物によるへこみや傷、ひび割れ"などの異常がないことを確認します。

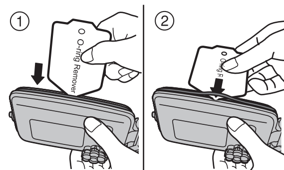
1 Oリングを防水プロテクターから取り外します。



前側（白色）

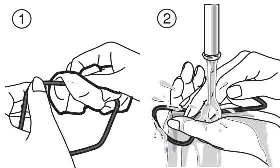


後側（橙色）



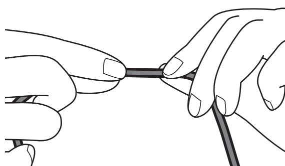
① Oリングと Oリング溝の壁の間に開閉ノブロック外し/Oリング取外し用ピックを差し込みます。
② 差し込んだ開閉ノブロック外し/Oリング取外し用ピックの先端をOリングの下にくぐらせるようにします（ピックの先端で溝を傷つけないように注意してください）。
③ 浮き上がったOリングを指先でつまみ、防水プロテクターから取り外します。

2 Oリングの古いグリスや付着した異物（繊維や砂など）を取り除きます。



① 繊維くずの出ないやわらかい布などで、Oリングに付着した異物をふき取ります。
② 水洗いをして水分をふき取らずに乾燥させます（繊維の付着防止）。

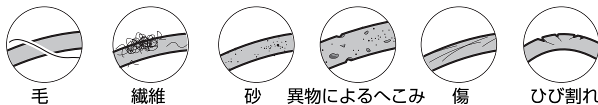
3 Oリングを指でつまみ、全周を軽くしごいて異物の付着によるへこみや傷、劣化によるひび割れの有無を確認します（指先の感触で確認できます）。



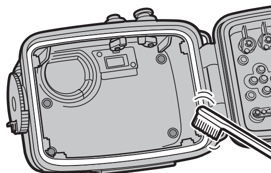
異常が見受けられるときは、新しいOリングと交換してください。

(!) Oリングを指でしごく際には、強く引っ張って、引き伸ばさないようご注意ください。

異物や異常の一例

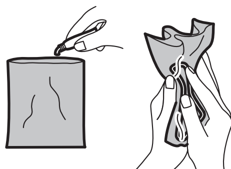


4 Oリング溝は歯ブラシや綿棒などで、古いグリスや付着した異物を取り除きます。



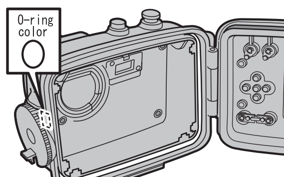
(!) 綿棒の繊維くずが残らないように十分にご注意ください。

5 Oリングに専用グリスを塗布します。

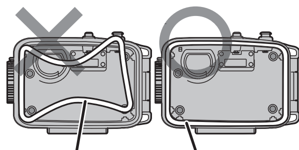


清潔なポリ袋（大きさは10cm×20cmぐらい）の中に付属のグリスを5mmくらいチューブからしぼり出してよくもみます。
Oリングをポリ袋に入れてさらにもみ、グリスをよくなじませます。
ポリ袋は清潔な状態であれば繰り返し使用できます。

6 前側Oリング（白色）を取り付けます。



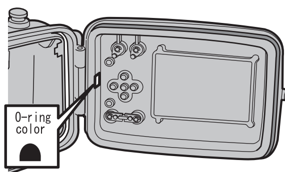
間違えないように、防水プロテクター内側のシール（白色）を確認します。



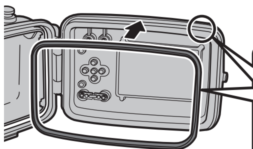
Oリング（白色）　Oリング（白色）

前側Oリング（白色）をいったん防水プロテクターに置き、ねじれがないことを確認します。
ねじれがなければ、異物を挟み込んだり、ゴミが付着しないように気をつけて取り付けます。

7 後側Oリング（橙色）を取り付けます。

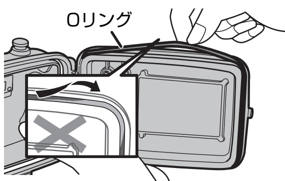


間違えないように、防水プロテクター内側のシール（橙色）を確認します。



Oリングの平らな面が溝の底面に向くようにします。





取り付ける際に、Oリングのねじれ、たわみ、溝からはみ出しがないことを確認します。

(!) 前側、後側Oリングの両方ともご確認ください。

(!) Oリングのメンテナンスを行うときは、レンズ窓や液晶モニター窓にグリスが付着しないよう十分にご注意ください。レンズ窓や液晶モニター窓が汚れた際には、乾いた柔らかい布などで軽くふいてください。

別売アクセサリーの紹介

■デジタルカメラFinePix Z100fd用防水プロテクターWP-FXZ100の別売の消耗品をご紹介いたします。

※ 最新情報は富士フイルムホームページをご覧ください。
http://fujifilm.jp/

• シリカゲルセット（SST-01） レンズの曇りを低減する乾燥剤です。 （シリカゲル×6個）
• Oリングキット（ORK-FXZ100） メンテナンス用の消耗品のセットです。 （スペア用Oリング×各1個、開閉ノブロック外し/Oリング取外し用ピック×1枚）
• シリコングリス（SGR-01） Oリングメンテナンス用の専用グリスです。 （専用グリス×1個）

別売アクセサリーのご使用については、各種アクセサリーに付属の使用説明書などの指示に従ってください。

日本語

使用上のご注意

- 環境温度+40℃以上のところでは使用または保管しないでください。
- ＋40℃を超える温水の中では使用しないでください。浸水の原因になります。
- シンナー、ベンジン、アルコールなどの揮発性の薬品は表面をいため、高圧下でひび割れの原因になりますので使用しないでください。
- 三脚座には無理な力を加えないでください。
- ぶつけたり強い衝撃を与えないでください。
- 防水プロテクターを水中に投げ込まないでください。
- 海辺などでの使用後は、防水プロテクターを完全に閉めた状態でバケツなどにためた水道水で洗い、砂や塩分を落としてから、乾いた柔らかい布で水分を十分にふき取ってください。
- 本製品は、防水プロテクターとして水中で使うことを想定しています。カメラを入れたままの放置、または保管はしないでください。特にバッテリーは、液もれや火災の原因になることがあります。

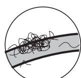
■水もれ事故を防ぐために

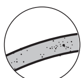
本製品を使用中に水もれ事故が発生すると装着されたカメラが修理不能になります。以下の注意を守った上でご使用ください。

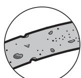
- Oリングは使いかたによって差異がありますが、約1年を目安に新品と交換してください。
- Oリングに異物が付着している場合は浸水の原因になりますので、ふき取ってください。ふき取るときは繊維くずが残らないようにしてください。異物が取れないときは水洗いしてください。
- Oリングに傷やひびがあるとき、変色や変形が現れたときは新品と交換してください。
- Oリング交換時にはOリング溝内をクリーニングし、砂やゴミ、頭髪など異物がないことを確認してください。
- Oリングには弊社指定のグリスをご使用ください。
- Oリングは正しくセットされていないと、浸水する場合があります。Oリングをセットする際は溝の形状に合わせ、ねじれたりしないように注意してセットしてください（→23ページ）。
- 夏期の直射日光の当たるところ、閉め切った自動車および暖房器具の近くなどに放置したり、長時間外力を加えたりしないでください。熱や力によって変形し、防水性能が損なわれ使用できなくなる場合があります。
- Oリングとその接触面をぶつけたり異物（砂やゴミ、頭髪など）を挟み込んだりして傷を付けないようにしてください。
- 浸水テストと最終テストを実施した上でご使用ください。
- 水もれの兆候が起きたらできるだけ早く水中から出し、水もれ原因をよく調べて、適切な処置をとってください。

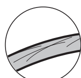
異物や異常の一例

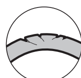

毛


繊維


砂


異物によるへこみ


傷


ひび割れ

主な仕様

対象カメラ	フジフイルムデジタルカメラ FinePix Z100fd
許容水深	水深40m以内
主要材質	本体　　：透明ポリカーボネート レンズ窓：強化ガラス
本体外形寸法	幅128mm×高さ91mm×奥行き60mm（突起部含む）
本体質量	約247g（カメラ、付属品含まず）

※ 仕様・性能は、予告なく変更することがありますのでご了承ください。使用説明書の記載の誤りなどについての補償はご容赦ください。

アフターサービスについて

保証書

- 保証書はお買上げ店に所定事項を記入していただき、大切に保存してください。
- 保証期間中は、保証書の記載内容に基づいて無償修理をさせていただきます。保証規定に基づく修理をご依頼になる場合には、必ず保証書を添付してください。なお、お買上げ店または修理サービスセンターにお届けいただく際の運賃などの諸費用は、お客様にてご負担願います。

修理

■ 調子が悪い時はまずチェックを

使い方の問題か、故障か迷うときは、FinePixサポートセンターへお問い合わせください。電話番号が32ページに記載されています。

■ 故障と思われるときは

富士フイルム修理サービスセンターまたは当社サービスステーションに修理をご依頼ください。富士フイルム修理サービスセンター、サービスステーションのご案内が32ページにあります。依頼方法は、次のページの中からお客様のご都合によりお選びください。

■ 修理ご依頼に際してのご注意

- 31ページにある「修理依頼票」をコピーしていただき、必要事項をご記入の上､製品に添付してください。「修理依頼票」は、故障箇所を正確に把握し、迅速な修理を行うための貴重な資料になります。
- 修理料金の見積をご希望の場合には、「修理依頼票」の「見積」欄にご記入ください。ご指定のないときは、修理を進めさせていただきます。なお、見積は有料となります。
- 落下･衝撃､砂･泥かぶり､冠水･浸水などにより、修理をしても機能の維持が困難な場合には、修理をお断りする場合もあります。

■ 修理部品について

- 本製品の補修用部品は、製造打ち切り後８年を目安に保有しておりますので、この期間中は原則として修理をお引き受けいたします。ただしこの期間中であっても、部品都合等により、同等の製品に交換させていただく場合もあります。
- 本製品の修理の際には、環境に配慮し再生部品や再生部品を含むユニットと交換させていただく場合があります。交換した部品およびユニットは回収いたします。交換部品が必要な場合には、修理をご依頼されるときにその旨をお伝えください。

個人情報の取扱について

当社は、お客様の住所・氏名・電話番号等の個人情報を大切に保護するため、個人情報保護に関する法令を遵守するとともに、電話問い合わせ時あるいは修理依頼時にご提供いただいたお客様の個人情報を次のように取扱います。

1. お客様の個人情報は、お客様のお問い合わせに対する当社からの回答、修理サービスの提供およびその後のユーザーサポートの目的にのみ利用いたします。
2. 弊社指定の宅配業者、修理業務担当会社、その他の協力会社に当社が作業を委託する場合、委託作業実施のために必要な範囲内でお客様の個人情報を開示することがございます。開示にあたりましては、盗難・漏洩等の事故を防止し、また当社より委託した作業以外の目的に使用しないよう、適切な監督を行います。
3. ご提供いただいたお客様の個人情報に関するお問い合わせ等は、FinePixサポートセンター等のお問合せ先、富士フイルム修理サービスセンターあるいは修理依頼先サービスステーション宛にお願いいたします。

アフターサービスについて

修理の依頼方法は、下記の中からお客様のご都合に合わせてお選びください。

● 富士フイルム修理サービスセンターへの送付修理

- ご依頼の際「修理依頼票」を記載の上修理依頼品に添付してください。
- 修理料金は、修理完了品お届け時に宅配業者に直接お支払いください。

● お買上げ店への持込修理

- 修理料金及びその支払方法については、お持ちいただいたお店にご確認下さい。

■ 修理に関する情報は

- **修理サービスQ&A**
  http://repairlt.fujifilm.co.jp/faq/after/index.html
  修理依頼方法、紛失した付属品の購入方法など修理に関するよくある質問と回答をまとめて掲載しています。
- **修理納期検索サービス**
  http://repairlt.fujifilm.co.jp/repair/certificate.jsp
  東京もしくは大阪のサービスステーションおよび富士フイルム修理サービスセンターへ修理依頼品を送付、あるいは持ち込みされた場合、修理完了予定日を検索することができます。
- **FinePix修理概算見積サービス**
  http://repairlt.fujifilm.co.jp/estimate/index.php
  当社サービスステーションに直接修理依頼された場合の目安の修理料金を算出できます。

WP-FXZ100 修理依頼票

※ 予め28ページの「個人情報の取扱について」をご確認ください。

※ 本紙は拡大コピーしてお使いください。

※ 下表の□は、該当する項目にチェック（✔）を入れてください。

<table>
<tr><td>フリガナ</td><td></td><td>電話番号</td><td></td></tr>
<tr><td>お名前</td><td></td><td>ファクス番号</td><td></td></tr>
<tr><td>ご住所</td><td colspan="3">〒　－</td></tr>
<tr><td colspan="2">ボディ番号（機番）本体内側底面に記載してある11けたの番号です。修理お問い合わせ時にご連絡ください。</td><td colspan="2">No.</td></tr>
<tr><td>修理品への添付</td><td colspan="3">□保証書
□（　　）　□（　　）
□（　　）　□（　　）</td></tr>
<tr><td colspan="4">故障内容（故障時の様子や発生頻度、症状など具体的にご記入ください）</td></tr>
<tr><td>お見積もり</td><td colspan="3">□必要（修理金額　　円以上見積もり）　□不要</td></tr>
<tr><td>お見積もり連絡方法</td><td colspan="3">□電話　□ファクス</td></tr>
</table>

日本語

● 本製品に関するお問い合わせは…

富士フイルムFinePixサポートセンター



0570-00-1060
市内通話料金で
ご利用いただけます

携帯電話・PHS・IP電話・NTT以外の固定電話など、ナビダイヤルをご利用いただけない場合は
042-481-1673

月曜日～金曜日 午前9：00 ～午後5：40　土曜日 午前10：00 ～午後5：00
日・祝日・年末年始を除く

FAX　042-481-0162

受付時間：24時間（返信対応は電話の受付時間と同一です）
※予め「アフターサービスについて」の項の「個人情報の取扱について」をご確認ください。

● 本製品の関連情報は、下記のホームページをご覧ください。
http://fujifilm.jp/
弊社ホームページの自己解決に役立つ「Q＆A検索」もご利用ください。

● 修理の受付は…
※詳細は本文中の「アフターサービスについて」をご覧ください。
※予め「アフターサービスについて」の項の「個人情報の取扱について」をご確認ください。

■ 修理のご相談受付窓口　富士フイルム修理サービスセンター



0570-00-0081
⇒呼び出し音の前にNTTより通話料金の目安をお知らせします。

PHS・IP電話・NTT以外の固定電話など、ナビダイヤルをご利用いただけない場合は
0228-35-3586

月曜日～金曜日 午前9：00 ～午後5：40　土曜日 午前10：00 ～午後5：00
日・祝日・年末年始を除く

FAX　0570-06-0070

受付時間：24時間（返信対応は電話の受付時間と同一です）

■ 修理品ご送付受付窓口　富士フイルム修理サービスセンター
〒989-5501　宮城県栗原市若柳字川北中文字95-1
TEL 0228-35-3586

■ 修理品お持込窓口　全国6箇所のサービスステーション（東京・大阪・札幌・仙台・名古屋・福岡）でも修理をお受けします。
サービスステーションにつきましては、当社ホームページ http://fujifilm.jp/をご確認ください。

● 本製品以外の富士フイルム製品のお問い合わせは…
お客様コミュニケーションセンター（月曜日～金曜日 午前9：30 ～午後5：00）：
TEL 03-3406-2982

Memo

Safety Notes

Thank you for purchasing this product.
Before using the product, make sure to read this "Owner's Manual," particularly these "Safety Notes," as well as the "Owner's Manual" for the Digital Camera. After reading them, keep them available so that you can check them easily at any time.

■ The icons shown below are used in this document to indicate the severity of the injury or damage that can result if the information indicated by the icon is ignored or the product is used incorrectly.

 WARNING	This icon indicates that serious injury can result if the information is ignored.
 CAUTION	This icon indicates that personal injury or material damage can result if the information is ignored.

■ The icons shown below are used to indicate the nature of the information which is to be observed.

	Triangular icons notify the user of information requiring attention ("Important").
	Circular icons with a diagonal bar tell you that the action indicated is prohibited ("Prohibited").
	Filled circles with an exclamation mark notify the user of an action that must be performed ("Required").

 **WARNING**


Do not disassemble.

Never attempt to modify or disassemble the product.
This may cause water to leak in.



Do not place the product on an unstable surface.
This can cause the product to fall or tip over and cause damage or injury.



Use only the battery specified for use with the camera.
The use of other power sources can cause fire.



Do not use the battery except as specified.
Load the battery as shown with the indicator.



Do not heat, modify or attempt to disassemble the battery.
Do not drop or subject the battery to any impact.
Do not short-circuit the battery.
Do not store the battery with metallic products.
Do not use chargers other than the specified model to charge the battery.
Ignoring any of the above instructions can cause the battery to explode or leak and cause fire or injury as a result.



Keep out of the reach of small children.
This product could cause injury in the hands of a child.



Take care when using the waterproof case with the strap attached.
This may cause the case to swing unexpectedly, causing damage or injury.



Do not leave the underwater camera housing in direct sunlight or in places subject to extreme temperatures.
If pressure inside the case rises due to heat, the lid may pop open violently and cause damage or injury.



Do not eat the silica gel or grease for use with this product.
If it is put in the mouth or eaten, seek medical advice immediately.

 CAUTION



Do not drop the product or strike it against hard objects.
It may crack the product and cause water to leak in.



Remove the battery when you are cleaning the camera or you do not plan to use the camera for an extended period.
Failure to do this can cause the battery to leak or cause fire.



Do not use the flash too close to a person's eyes.
It may temporarily affect the eyesight. Take particular care when photographing infants and young children.



Do not open or close this product in sandy or dusty places.
If a sand grain or dust is caught in the O-ring, it may cause water to leak in.



Do not leave the product in places subject to extremely high or low temperatures.
It may cause it to break down.



If the camera gets wet, immediately remove the battery from the camera.



Do not use the product at depths exceeding 40 m (131 ft.) below the surface.
It may cause it to break.

Contents

Preface

- FUJIFILM Corporation cannot accept liability for any incidental losses (such as photographic costs or loss of income from photography) incurred as a result of faults with this product.

■ Be sure to read this before use

- This waterproof case is designed for use underwater to a depth of 40 m (131 ft.). Handle the case carefully.
- Please follow the guidelines in this manual regarding how to prepare the waterproof case for use, how to make a preliminary check, maintaining the case and putting it away it after use. Use the product only as described in this manual.
- FUJIFILM Corporation will not compensate for any damage to the digital camera or any incidental losses caused by improper use of the waterproof case.
- FUJIFILM Corporation will not compensate for any personal injury or death or property damage caused during use.

ENGLISH

Accessories Included

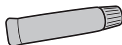
- **Hand strap (1)**



- **Special pick (1)**
  (for Opening knob unlocked / O-ring remover)



- **Special silicone grease (1)**

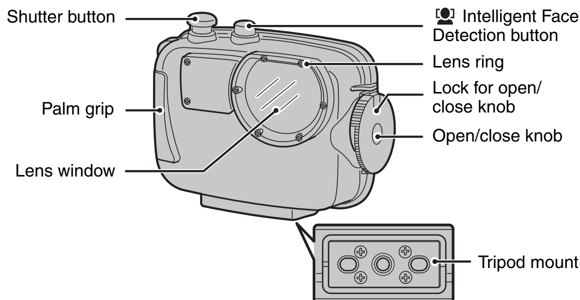


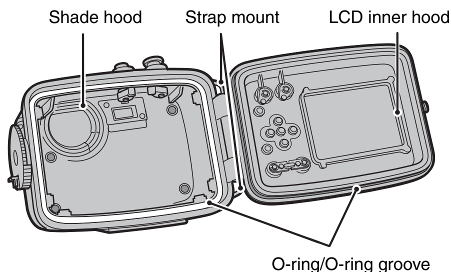
- **Owner’s manual (this manual)**
- **Quick maintenance guide**
- **Caution sheet**

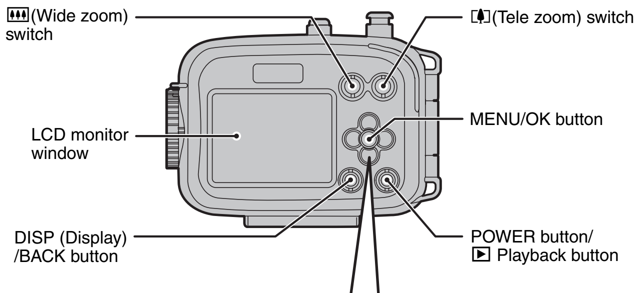
- **Silica gel pack (3)**



Part Names


Shutter button
Intelligent Face Detection button
Lens ring
Lock for open/ close knob
Palm grip
Open/close knob
Lens window
Tripod mount


Shade hood
Strap mount
LCD inner hood
O-ring/O-ring groove



▲▼◀▶ 4-direction button

[Photography]

◀/ Macro button

▶/ Flash button

▲/ Dual IS button

▼/ Self-timer button

[Playback]

▲/ Erase button

ENGLISH

- The operation unit functions correspond to individual operations of the camera. Confirm the functions of the unit in the "Owner's Manual" for the Digital Camera.
- A protection sheet is attached to the LCD monitor window when you purchase the unit. Make sure to peel off the sheet before using it.
- When using the IR communication function, take the camera out of the waterproof case. If the camera is in the waterproof case, IR communication may not be available.

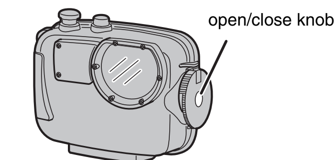
Preliminary check of the case

Make a preliminary submersion test on the waterproof case before positioning the digital camera

Before installing the digital camera in the case, make sure that there is no water leakage.

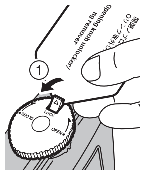
1 Check the outside of the waterproof case to make sure that there are no cracks or faults with it.

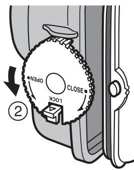
2 Open the waterproof case using the special pick (included).





special pick (included)



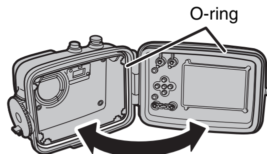


① Release the lock of the open/close knob.
② Turn the open/close knob in the direction of the “OPEN” arrow to open the waterproof case.

(!) When opening the waterproof case, take care not to catch your fingers or palm in the waterproof case.

(!) You can also use the adjuster of the strap if you do not have the special pick (p.15).

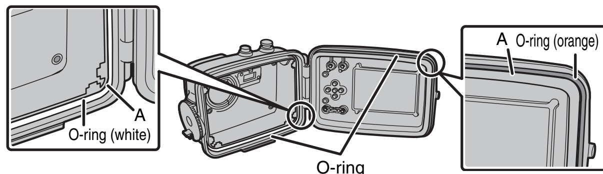
3 Check the inside of the waterproof case for the following:



- Cracks (especially around the O-ring)
- Correct seating of the O-ring (For correct installation of the O-ring, see p.23.)
- That the O-ring has no scratches or cracks, or that it is oddly shaped, twisted, detached, etc.
- Sand or foreign particles stuck to the O-ring

4 Wipe off any foreign particles attached to the O-ring and O-ring seal surface (Fig. A position) using soft, lint-free cloth or something similar.

(!) If using tissue paper to wipe it off with, be careful, since fine lint may be left behind.

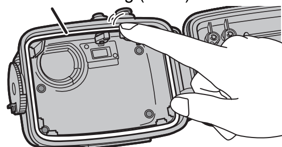


ENGLISH

5 Check the O-ring installed.

Check the front-side O-ring (white) installed.
Feel the O-ring with the tip of your finger to confirm that there is no step. If you feel a step, the O-ring may be twisted. Reinstall it, following the instructions on p.23.

Front-side O-ring (white)

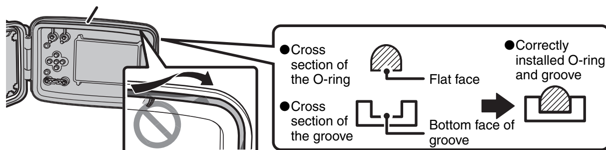


(!) If the O-ring is twisted or stretched, or if there is any foreign particle on or underneath it, water will leak in.

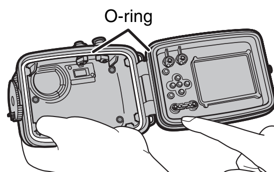
Check the back-side O-ring (orange) installed.

If installed incompletely, reinstall it, following the instructions on p.24.

Back-side O-ring (orange)



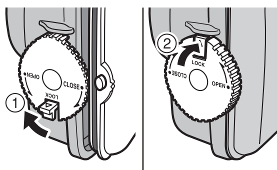
6 When all is well, use a clean fingertip to apply the special silicone grease. And then spread it on the surface of the O-ring until it is completely covered.



(!) Only use the special silicone grease provided.

(!) After applying the grease, check that there is no sand or other substances attached to the O-ring.

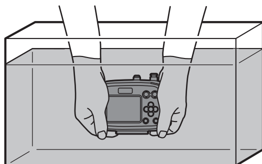
7 Close the waterproof case.



① Close the waterproof case and turn the open/close knob in the direction of the “CLOSE” arrow to seal it.
② Lock the open/close knob.

(!) When closing the waterproof case, take care not to catch your fingers or palm in the waterproof case.

8 Dip the empty waterproof case into a water tank or a bathtub and check for water leaks. For how to check it, see p.13.



If a water leak is detected …

① Immediately take the waterproof case out of the water and dry it on the outside.
② Make sure that there are no cracks in the waterproof case body. Check the O-ring for attached foreign particles, flaws, cracks, odd shape, or twisting, and for any foreign particles in the O-ring groove.
③ When all is well, start over from the procedure on p.8.

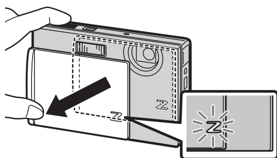
(!) If you find something wrong with the waterproof case, immediately stop using it and contact your FUJIFILM dealer.

Positioning the Digital Camera in the Waterproof Case

Before installation, check the following:

- To avoid losing power while shooting underwater, charge the battery fully before use.
  Full recharging times for completely depleted battery
  NP-45 : approx. 3 hours
- Check how many new images can be stored on the media.
- Remove the hand strap from the digital camera. Using the camera in the waterproof case with its strap may cause the case to leak.

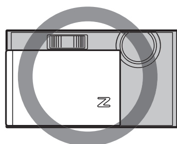
1 Turn the camera on.

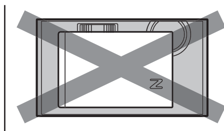


Open the lens cover.

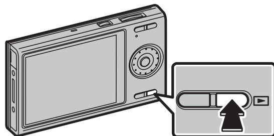
(!) When opening the lens cover, take care not to touch the lens.

(!) Check that the lens cover is opened correctly.If the lens cover is not opened correctly, the power of camera may not be available.



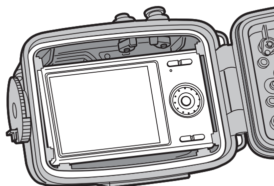


2 Turn the camera off.



Press the “POWER” button/▶ Playback button and change to Playback mode. Then press Playback button for a little time.

3 Open the waterproof case (p.8) and set the camera in it.

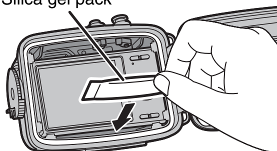


Slip the camera into the waterproof case until it stops securely.

(!) When setting the camera into the waterproof case, make sure to check that the lens cover is opened correctly.When closing the lens cover, it may cause a water leak. Also it is impossible to take a picture under water.

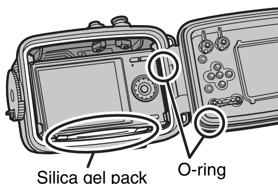
(!) When opening the waterproof case, take care not to catch your fingers or palm in the waterproof case.

4 Insert the silica gel pack into the space underneath the bottom of the camera.



(!) Make sure to insert the silica gel pack correctly. If it is incompletely inserted, it will prevent the O-ring from acting as a seal, and water will leak in.

5 Confirm the following before closing the waterproof case.



- No part of the silica gel pack is protruding.
- There is no dust, hair, or other foreign particle on the O-ring, in the O-ring groove, or on the edge face of the waterproof case that engages with the O-ring.
- The camera is correctly seated and aligned in the waterproof case.

6 When all is well, close the waterproof case (p.10).

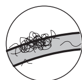
→ Check that the camera's "POWER" button/▶ Playback button can be correctly operated using the controls on the housing.

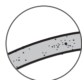
(!) When closing the waterproof case, take care not to catch your fingers or palm in the waterproof case.

To prevent water leaks

Any foreign particles attached to the O-ring may cause a water leak. Remove the foreign particles (see p.21). If you cannot remove them, replace the O-ring with a new one.


Hair

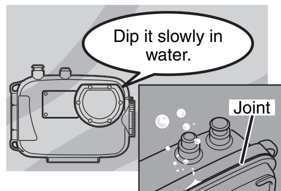

Lint


Sand

Conducting a final test

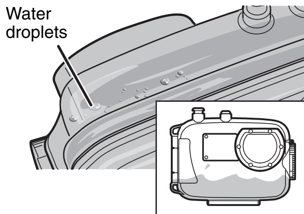
Carry out a final submersion test on the waterproof case after mounting the digital camera. To check for water leaks, watch for any water leaking in while immersing it in a water tank or a bathtub filled with water. Check it in a way that lets you take it out of water immediately (to save the camera inside) if you need to.

1 Immerse it in water for 30 seconds.



- If you see a continuous flow of air bubbles from the joint of the waterproof case while in the water, this indicates a leak.
- When all is well, operate the buttons and take some test shots while it is under water.

2 After slowly lifting the waterproof case out of water, closely check for the following:



- Water droplets near the joint of the waterproof case.
- Water pooled inside the waterproof case.

ENGLISH

If a water leak is detected ...

① Immediately take the waterproof case out of the water and dry it on the outside.
② Take the digital camera out of the waterproof case. If you see any drops of water on the digital camera, wipe them off at once.

> (!) When taking the camera out of the waterproof case, open the waterproof case with the lens facing downwards to avoid the camera falling out. Also, when opening the waterproof case, take care not to catch your fingers or palm in the waterproof case.

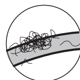
③ Make sure that there are no cracks in the waterproof case body. Check the O-ring for attached foreign particles, flaws, cracks, odd shape, or twisting, and for foreign particles in the O-ring groove.
④ When all is well, start over from the procedure on p.8.

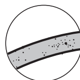
> (!) If you find something wrong with the waterproof case, immediately stop using it and contact your FUJIFILM dealer.

> (!) If water has entered the camera body, stop using it immediately and contact your FUJIFILM dealer. Using the camera in a faulty state may cause fire or electric shock. Do not use it in this state under any circumstances.

Any kind of foreign particle attached to the O-ring may cause a water leak. Remove the foreign particles after checking how to on p.21.

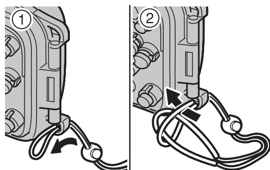

Hair


Lint


Sand

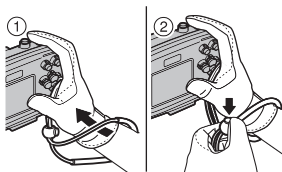
Attaching the strap

1 Attach the strap to the waterproof case.



Attach the strap to the waterproof case as shown in ① and ②.

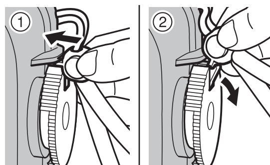
2 Tighten the hand strap around your wrist.



① Put your hand and wrist through the hand strap.
② To reduce the risk of dropping the camera, tighten the hand strap around your wrist using the adjuster.

Opening the waterproof case using the adjuster of the strap

When opening the waterproof case, you can also use the adjuster of the strap if you do not have the special pick.



① Insert the adjuster's tab as shown in the illustration.
② Release the lock of the open/close knob.

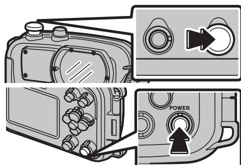
Do not use the adjuster of the strap to detach the O-ring. Water leaks may result if the O-ring is damaged or contaminated with foreign particles.

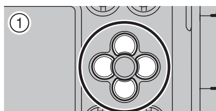
ENGLISH

Taking Pictures

- Using the waterproof case, you can take pictures down to 40 m (131 ft.) underwater.
- The operation unit functions correspond to individual operations of the camera. For the operating instructions or functions for the camera, see the owner's manual supplied with your camera.

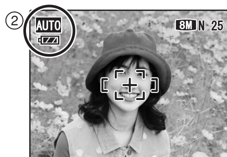
1 Turn the camera on.





Press the "POWER" button/▶ Playback button, and press the Shutter button.

2 Set the Photography Mode.



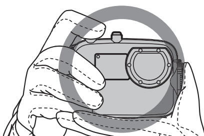
① Press 4-direction button to set the Photography mode.
② Check the Photography mode on the LCD monitor window.

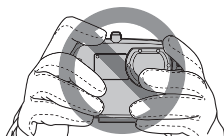
Test-shoot before using the protected camera under water.

(!) When setting the Photography mode with the 4-direction button of the waterproof case, be sure to confirm that the mode indication appears in the LCD monitor.

3 Hold the waterproof case firmly with both hands.

(!) Hold the camera so that your fingers or the strap do not cover the lens, or flash. If the lens, or flash is obscured, subjects may be out of focus or the brightness (exposure) of your shot may be incorrect.





4 Take the pictures.

① Press the Shutter button down halfway to focus.

② Press the Shutter button down fully to take a picture.

(!) You will find a small stop point when pressing the shutter button down lightly. That position is the halfway point. Focus and brightness is determined when the button is pressed halfway.

(!) It is not possible to press the Shutter button halfway while recording movies.





About the UNDERWATER mode

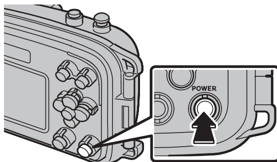


Set the Photography mode to "UNDERWATER". Background blues are vividly photographed.

(!) For more information, see the owner's manual supplied with your camera.

After Taking Pictures (Storage)

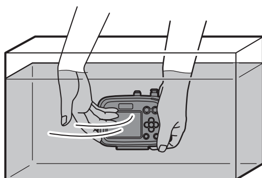
1 Turn the camera off.



Press the “POWER” button/▶ Playback button and change to Playback mode. Then press Playback button for a little time.

(!) Make sure that the camera is turned off.

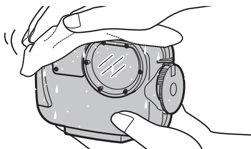
2 At the end of shooting, immediately **fill** a container **with fresh water** to wash off the salty sea water.



Rinse the outside of the waterproof case well by stirring the water by hand.

(!) If any salt remains on the case, it can cause rust, local malfunctioning, and other problems.

3 Wipe off the water droplets carefully from the waterproof case.

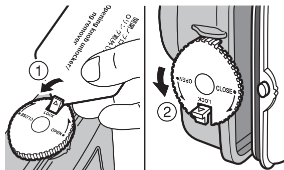


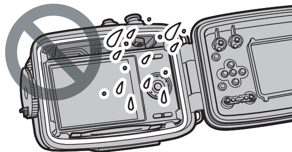
In particular, carefully wipe away the droplets from the joint of the waterproof case.

(!) Use a soft, lint-free piece of cloth or something similar.

(!) Remove the water droplets from under the Shutter button, the open/close knob and the others.

4 Take the camera out of the waterproof case.





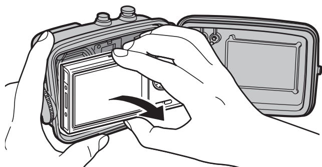
① Release the lock of the open/close knob.
② Turn the open/close knob in the direction of “OPEN” arrow to open the waterproof case. Open it slowly so that water does not drip onto the camera inside.

(!) Before opening the waterproof case, confirm that your hands and hair are dry and will not drip onto the camera and the inside of the waterproof case.

(!) When opening the waterproof case, take care not to catch your fingers or palm in the waterproof case.

(!) When your hands are wet, make sure not to touch the camera or the battery.

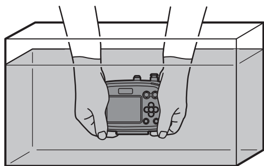
(!) Do not open the waterproof case in places where the inside might get wet or sandy.



③ Take the camera out of the waterproof case.

(!) When taking the camera out of the waterproof case, open the waterproof case with the lens facing downwards to avoid the camera falling out.

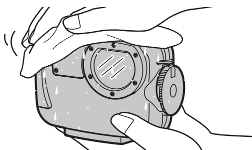
5 With the camera dismounted, making sure that there are no water droplets or foreign particles on the O-ring, close the waterproof case and turn the open/close knob in the direction of "CLOSE" arrow to seal it tight. **Wash it thoroughly with fresh water** once again.



Try to remove any remaining salt by lightly moving the various buttons under the water.
We recommend soaking it in fresh water for about 1 hour.

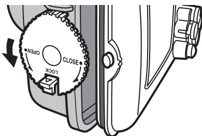
- (!) If stored with drops of salty water on it, salt crystals will clog the movement of the open/close knob and other parts. Rusting may also be caused.
- (!) When closing the waterproof case, take care not to catch your fingers or palm in the waterproof case.

6 Carefully wipe off the water droplets from the waterproof case.



- (!) Use a soft, lint-free piece of cloth or something similar.
- (!) Remove the water droplets from under the Shutter button, the open/close knob and the others.

7 Open the waterproof case a little and dry it in a breezy place out of direct sunlight. After drying the case, store it where it will not be directly exposed to sunlight.



- (!) Do not use a hair dryer, warm or hot air, or direct sunlight to dry the waterproof case.

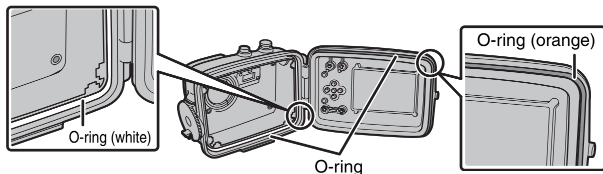
If the waterproof case is not to be used for a long time, remove the O-ring and store the waterproof case safely. For how to remove the O-ring, see p.21.

Maintenance

Maintenance after use

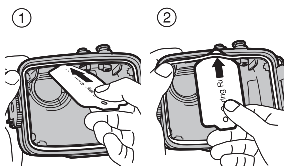
Always do this immediately after using the waterproof case. Check that the O-ring has no dents or flaws caused by foreign particles, cracks, or other damage.

1 Remove the O-ring from the waterproof case.

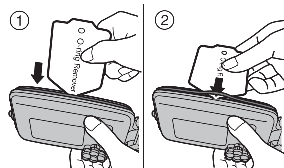


ENGLISH

Front-side O-ring (white)

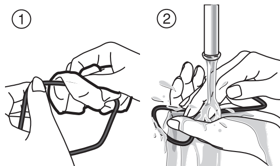


Back-side O-ring (orange)



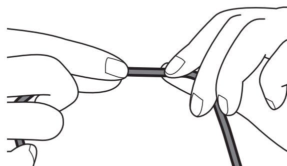
① Insert the special pick between the O-ring and the O-ring groove.
② Insert the tip of the special pick beneath the O-ring. Take care not to scratch the groove with the tip of the pick.
③ Grip the suspended the O-ring between your fingers and remove it from the waterproof case.

2 Remove old grease and foreign particles such as fibers and sand from the O-ring.



① Wipe foreign particles off with a soft, lint-free piece of cloth.
② Dry the rinsed O-ring without wiping water again. This is to prevent fiber attachment.

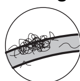
3 Pick up the O-ring with your fingers and feel it carefully, exerting only light pressure, all along it to check whether or not there are any dents or flaws caused by foreign particles or cracks due to deterioration (you can feel these with the tip of the finger).

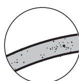


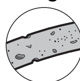
(!) When pressing with your fingers and sliding them over the O-ring, be careful not to stretch it by pulling too tight.

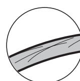
Examples of foreign particles and damage

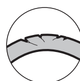

Hair


Lint

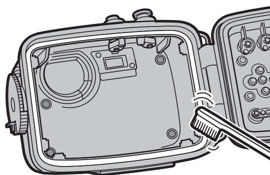

Sand


Dents caused by foreign particles


Flaw

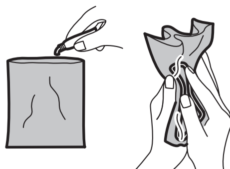

Crack

4 Remove all foreign particles from the O-ring groove using a toothbrush or cotton swab.



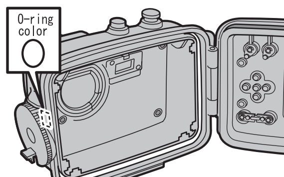
Make completely sure that no waste lint from the cotton swab is left behind.

5 Coat the O-ring with the special grease.

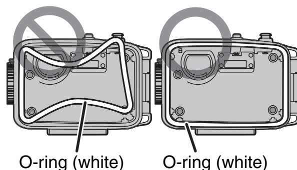


To apply a uniformly thin layer of silicone grease to the O-ring, squeeze out about 5 mm (0.2 in.) length of the grease provided with this product from the tube into a clean plastic bag (about 10 cm (3.9 in.) × 20 cm (7.9 in.) in size) and then knead it thoroughly. Put the O-ring into the plastic bag and continue kneading until the O-ring is completely covered with grease. The plastic bag can be used more than once if kept clean.

6 Install the front-side O-ring (white).

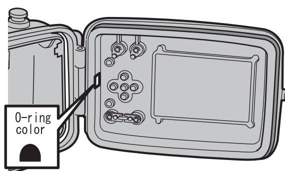


For correct installation, observe the sticker (white) inside the waterproof case.

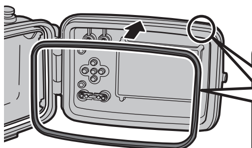


Place the front-side O-ring on the waterproof case beforehand to confirm that the O-ring is not twisted. If it is not twisted, make sure that it is clean, with no foreign particles embedded in it or dust stuck to it, before installing it.

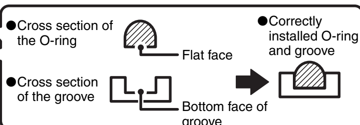
7 Install the back-side O-ring (orange).

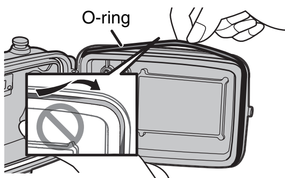


For correct installation, observe the sticker (orange) inside the waterproof case.



Match the flat face of the O-ring to the bottom face of the groove.





When installing the O-ring, check that it **neither twists, bends, nor bulges out of the groove**.

(!) Check both front and back side O-rings.

(!) When carrying out O-ring maintenance, take particular care to avoid getting grease on the lens window and LCD monitor window. If there is any soiling on the lens window or LCD monitor window, gently wipe it off with a soft dry cloth.

Notes on Using the Waterproof Case Correctly

- Do not use or store the waterproof case at temperatures above +40 °C/+104 °F.
- Do not use in water above +40 °C/+104 °F, since it may leak.
- Do not use thinner, benzene, alcohol, or other volatile chemicals for cleaning. Applying any such chemicals to the waterproof case may cause damage to its surface, and it will crack under high pressure.
- Do not overstrain the tripod mount.
- Do not strike or subject the waterproof case to impacts.
- Do not throw the waterproof case into the water.
- When you use waterproof case in seawater, wash it, while still tightly closed, in a bucketful of fresh water to rinse off the salt. Then dry the outside of the case, using a dry, soft piece of cloth.
- This product is designed to be used under water as a waterproof case. Do not leave it or store it with the camera still inside: the battery may leak or even cause a fire.

ENGLISH

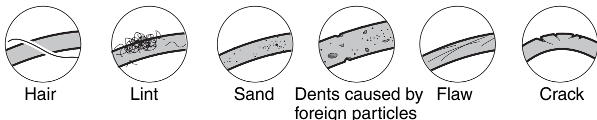
■ To avoid water leaks

If this case leaks while using it and soaks the digital camera inside, the camera cannot be repaired. Take the following precautions before use.

- The standard life of the O-ring is about one year, though it depends on operating conditions. Replace the O-ring with a new one once a year.
- Any foreign particles caught in the O-ring may cause a water leak. Wipe them off, making sure that no lint remains stuck to the O-ring. If a foreign particle cannot easily be removed, try washing it off with water.
- If the O-ring is scratched, cracked, discolored or deformed, replace it with a new one.
- When replacing the O-ring, first clean the groove for the O-ring and check that it is free of grains of sand, dust, hair, and other foreign particles.
- For the O-ring, use the specified brand of silicone grease recommended by FUJIFILM.
- If the O-ring is not seated correctly, a water leak may occur. When mounting the O-ring, take care that it stays in the groove and does not become twisted (p.23).
- Do not leave the waterproof case in direct sunlight in summer, in a closed vehicle, or near heating equipment. Do not apply any long-term external force to the waterproof case. Deformation caused by heat or force may cause a loss of water-proofing, making it unusable for use under water.
- Be careful not to damage the O-ring or the face that contacts it by banging them together or letting foreign particles (sand, dust or hair) get between them.

- Carry out the submersion and final test before using the product.
- If you find any signs of water leakage while taking photos, immediately take the product out of the water. Look into the cause and take suitable action.

Examples of foreign particles and damage



Hair Lint Sand Dents caused by foreign particles Flaw Crack

Specifications

Camera with which it should be used	Digital camera FinePix Z100fd
Pressure resistance	Up to 40 m (131 ft.) deep in water
Main materials	Case proper: Transparent polycarbonate Lens window: Reinforced glass
Dimensions (W × H × D)	128 mm × 91 mm × 60 mm / 5.1 in. × 3.6 in. × 2.4 in. (including the attachments)
Weight	Approx. 247 g / 8.7 oz. (not including camera and accessories)

✻ These specifications are subject to change without notice. FUJIFILM shall not be held liable for any damage resulting from errors in this Owner's Manual.

Accessories Guide

- **Silica gel pack set (SST-01)**
  Desiccating agent for lens blur reduction (Silica gel pack x 6)
- **O-ring kit (ORK-FXZ100)**
  Optional kit for maintenance (Spare O-ring x 1 each, Special pick for Opening knob unlocked/O-ring remover x 1)
- **Special silicone grease (SGR-01)**
  Special silicone grease for O-ring maintenance (Special silicone grease x 1)

Memo

ENGLISH

Notes pour la sécurité

Merci d'avoir choisi un de nos produits.
Avant d'employer le produit, n'oubliez pas de lire le "Mode d'emploi", et en particulier les "Notes pour la sécurité", aussi bien que le "Mode d'emploi" de l'appareil photo numérique. Après les avoir lus, gardez-les à proximité afin de pouvoir les consulter facilement à tout moment.

■ Dans ce document, les icônes montrées ci-dessous sont employées pour indiquer la sévérité des blessures ou des dommages qui peuvent résulter si l'information indiquée par l'icône est ignorée ou si le produit est manipulé de façon incorrecte.


AVERTISSEMENT — Cette icône indique que des blessures graves peuvent se produire si l'information est ignorée.


ATTENTION — Cette icône indique que l'on risque d'être blessé ou de provoquer des dommages matériels si l'information est ignorée.

■ Les icônes illustrées, ci-dessous, sont utilisées pour indiquer la nature des informations que vous devez observer.


Les icônes triangulaires informent l'utilisateur d'information demandant une importante attention ("Important").


Les icônes circulaires barrées en diagonale vous informent que l'action indiquée est interdite ("Interdite").


Les cercles entourant un point d'exclamation informent l'utilisateur qu'une action doit être effectuée ("Requis").



AVERTISSEMENT


Ne le démontez pas.

N'essayez jamais de modifier ou de démonter l'appareil photo.
Cela risque de causer des fuites d'eau.


Ne mettez pas l'appareil photo sur une surface inclinée ou mobile.
Cela risque de faire tomber ou de casser l'appareil et également cela risquerait de causer des blessures ou des dégâts.


N'utilisez que la batterie indiquée pour l'appareil photo.
L'utilisation d'autres sources d'énergie peut causer un incendie.


N'utilisez que la batterie indiquée.
Chargez la batterie en respectant la marche à suivre de l'indicateur.


Ne chauffez pas, ne modifiez pas et n'essayez pas de démonter la batterie.
Ne laissez pas tomber ou ne soumettez la batterie à aucun impact.
Ne court-circuitez pas la batterie.
Ne stockez pas la batterie à côté de produits métalliques.
N'employez pas de chargeur autre que le modèle indiqué pour charger la batterie.
La non conformité aux instructions ci-dessus risque de provoquer l'éclatement de la batterie, ainsi que des fuites, du feu ou des blessures.



Ne laissez pas cet appareil à côté de jeunes enfants.
Ce produit peut causer des blessures s'il se trouve dans les mains d'un enfant.



Faites attention lorsque vous utilisez le caisson étanche avec la dragonne.
Cela risque de faire ballotter le caisson inopinément, entraînant des dommages ou des blessures.



Ne laissez pas l'appareil photo sous-marin dans la lumière du soleil directe ou dans des endroits aux températures extrêmes.
Si la pression à l'intérieur du caisson est élevée due à la chaleur, le couvercle peut s'ouvrir brutalement et causer des dommages ou des blessures.



Le gel de silice ou la graisse utilisés avec ce produit ne doivent pas être mangés.
Si ceux-ci sont portés à la bouche ou mangés, consultez immédiatement un médecin.

 ATTENTION



Ne laissez pas tomber le produit et ne le cognez pas contre des objets durs.
Cela peut fendre le produit et causer des fuites d'eau.



Enlevez la batterie lorsque vous nettoyez l'appareil photo ou lorsque vous ne l'employez pas pendant une longue période.
Sinon, la batterie risquerait de fuir ou de s'enflammer.



N'employez pas le flash trop près des yeux d'une personne.
Cela peut temporairement affecter la vue. Faites attention, en particulier, lorsque vous photographiez des enfants.



Ce produit ne doit être ni ouvert ni fermé dans des endroits sableux ou poussiéreux.
Si un grain de sable ou de poussière s'introduit dans le joint torique, cela risque de causer des fuites d'eau.



Ne laissez pas le produit dans les endroits aux températures extrêmement élevées ou basses.
Cela risque de l'endommager.



S'il arrive que l'appareil photo soit mouillé, enlevez immédiatement la batterie de l'appareil photo.



N'employez pas le produit à des profondeurs excédant 40 m au-dessous de la surface.
Au-delà, il risque de se casser.

Tables des matières

Préface

- FUJIFILM Corporation n’accepte pas de responsabilité pour des pertes fortuites telles qu’elles soient (tels que des coûts ou des pertes de revenu concernant la photographie) qui proviendraient de susceptibles défauts de ce produit.

■ N’oubliez pas de lire ceci avant tout usage

- Ce caisson étanche est conçu pour l’usage sous-marin à une profondeur maximum de 40 m. Utilisez le avec soin.
- Veuillez suivre les directives de ce mode d’emploi concernant la préparation du caisson étanche avant son utilisation, comment faire un essai préliminaire, comment entretenir le caisson et comment l’entreposer après utilisation. N’employez ce produit uniquement comme décrit dans ce mode d’emploi.
- FUJIFILM Corporation n’indemnisera aucun dommage causé à l’appareil photo numérique ou aucune perte fortuite causés par l’utilisation incorrecte du caisson étanche.
- FUJIFILM Corporation ne compensera aucune blessures, morts ou dégâts matériels causés pendant l’utilisation.

Accessoires inclus

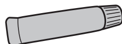
- **Dragonne (1)**



- **Stylet (1)**
  (pour libérer le bouton d’ouverture et enlever le joint torique)



- **Graisse de silicone spéciale (1)**



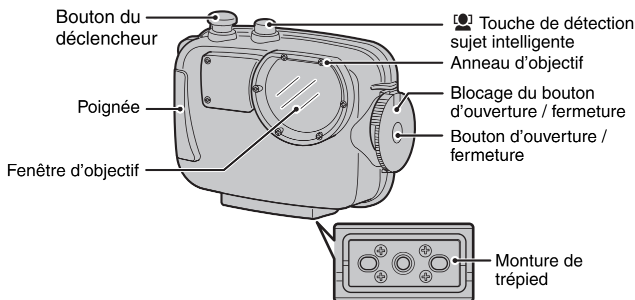
- **Mode d’emploi (cette brochure)**
- **Guide d’entretien rapide**
- **Feuillet de mise en garde**

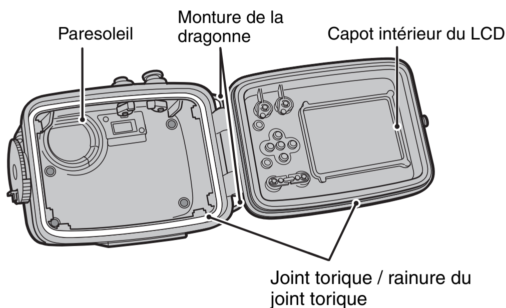
- **Paquet de gel de silice (3)**

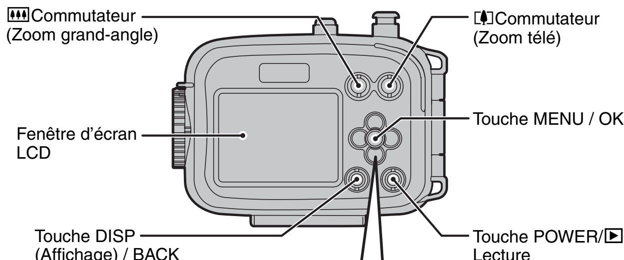


FRANÇAIS

Légende


Bouton du déclencheur
Touche de détection sujet intelligente
Anneau d'objectif
Poignée
Blocage du bouton d'ouverture / fermeture
Bouton d'ouverture / fermeture
Fenêtre d'objectif
Monture de trépied


Paresoleil
Monture de la dragonne
Capot intérieur du LCD
Joint torique / rainure du joint torique



▲▼◀▶ Touche de direction

[Photographie]

◀/ Touche macro

▶/ Touche flash

▲/ Touche de compensation d'exposition

▼/ Touche retardateur

[Lecture]

▲/ Touche efface

- Les fonctions d'unité opératoires correspondent aux opérations individuelles de l'appareil photo. Vérifiez les fonctions de l'unité dans le "Mode d'emploi" de l'appareil photo numérique.
- Une feuille de protection recouvre la fenetre d'ecran LCD lors de votre achat. N'oubliez pas d'enlever cette feuille avant l'emploi.
- Lorsque vous utilisez la fonction de communication IR, enlevez l'appareil photo du caisson étanche. Si vous laissez l'appareil photo dans le caisson étanche, il est possible que la communication IR ne soit pas disponible.

Essai préliminaire du caisson

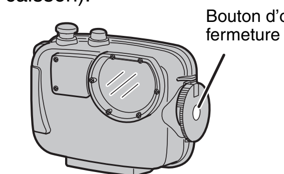
Faire un essai préliminaire d'immersion du caisson étanche avant d'y placer l'appareil photo numérique

Avant d'installer l'appareil photo numérique dans le caisson, veillez à ce que celui-ci soit bien étanche.

1 Examinez l'extérieur du caisson étanche pour vérifier s'il n'y a aucune fissure ou défaut.

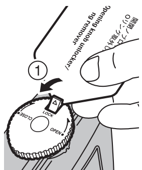
2 Ouvrez le caisson étanche en utilisant le stylet (livrée avec le caisson).

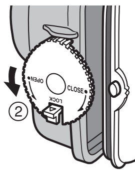
Bouton d'ouverture/
fermeture





Stylet (livrée avec le caisson)





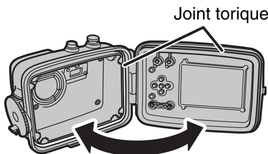
① Libérez le blocage du bouton d'ouverture/fermeture.
② Tournez le bouton d'ouverture/fermeture dans la direction de la flèche "OPEN" pour ouvrir le caisson étanche.

(!) Lorsque vous ouvrez le caisson étanche, veillez à ne pas vous coincer les doigts ou la main.

(!) Vous pouvez également utiliser le régleur de la dragonne si vous ne possédez pas le stylet (P.15).

3 Examinez l'intérieur du caisson étanche pour les points suivants :

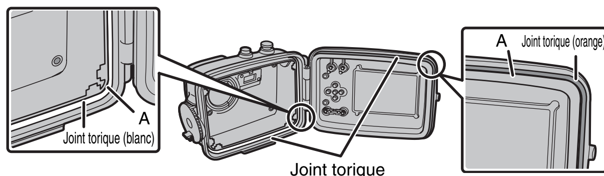
Joint torique



- S'assurer qu'il n'y a pas de fissures (en particulier autour du joint torique)
- S'assurer que le joint torique est installé correctement (pour installer correctement le joint torique, voir P.23.)
- S'assurer que le joint torique n'a aucune éraflure ou fissure, et qu'il n'est pas déformé, tordu, détaché, etc.
- S'assurer que ni du sable ni des particules étrangères ne sont collés au joint torique

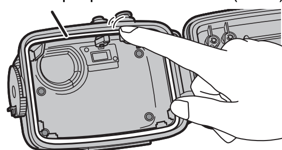
4 Essuyez avec un morceau de tissu doux et non pelucheux les corps étrangers qui sont collés sur le joint torique entier. (Fig. Position A)

(!) Si vous utilisez du papier de soie ou des mouchoirs en papier, vérifiez bien que de fines fibres ne se déposent pas sur le joint.



5 Vérifiez le joint torique installé.

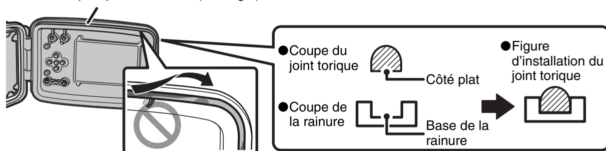
Vérifiez que le joint torique de l'avant (blanc) est bien installé.
En touchant le joint torique au bout d'un doit, confirmez qu'il n'y a aucune ondulation. Si c'est le cas, le joint torique peut être tordu. Posez-le de nouveau en vous référant à la P.23.



(!) Vous risquez d'avoir des fuites d'eau si le joint torique est tordu, sorti, ou recouvert de corps étrangers.

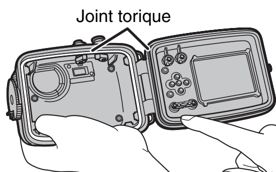
Vérifiez que le joint torique du dos (orange) est bien installé.

S'il n'est pas posé complètement, posez-le de nouveau en vous référant à la P.24.



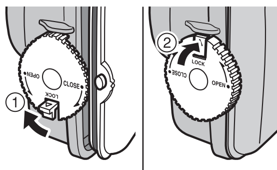
FRANÇAIS

6 Si vous êtes assuré que tout est en ordre, appliquez la graisse de silicone spécial avec un doigt propre. Ensuite, assurez-vous que la graisse de silicone est étalée également sur le joint jusqu'à ce qu'il soit complètement graissé.



- N'utilisez que la graisse de silicone spéciale qui est fournie.
- Après avoir appliqué la graisse, examinez qu'aucun grain de sable ou autres substances ne sont collés au joint torique.

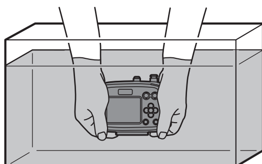
7 Fermez le caisson étanche.



① Fermez le caisson étanche et tournez le bouton d'ouverture/ fermeture dans la direction de la flèche "CLOSE" pour le fermer.
② Bloquez le bouton d'ouverture/fermeture.

- Lorsque vous fermez le caisson étanche, veillez à ne pas vous coincer les doigts ou la main.

8 Mettez le caisson étanche vide dans une bassine ou une baignoire remplie d'eau et assurez vous qu'il n'y a pas de fuites d'eau. Pour vérifier le montage des joints toriques, voir la P.13.



Si des gouttelettes d'eau sont détectées ...

① Enlevez immédiatement le caisson étanche de l'eau et séchez en l'extérieur.
② Vérifiez qu'il n'y a aucune fissure dans le corps du caisson étanche. Examinez le joint torique pour vous assurer qu'il n'y a pas de particules étrangères, de défauts, fissures, déformations ou torsions. Examinez également la rainure du joint torique pour vous assurer qu'aucune particule étrangère ne s'y soit glissée.
③ Si tout est bien, recommencez en utilisant le procédé détaillé en P.8.

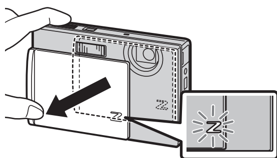
- Si vous trouvez des anomalies dans le caisson étanche, arrêtez immédiatement de l'utiliser et prenez contact avec votre revendeur FUJIFILM.

Mettre l'appareil photo numérique dans le caisson étanche

Avant installation, effectuez les vérifications suivantes :

- Pour utiliser la capacité totale de la batterie lorsque vous prenez des photos sous-marines, chargez la batterie entièrement avant utilisation.
  Durée de recharge complète de la batterie lorsqu'elle est complètement épuisée
  NP-45 : environ 3 heures
- Vérifiez combien de nouvelles photos peuvent être stockées sur le support.
- Enlevez la dragonne de l'appareil photo numérique. L'usage de l'appareil photo dans le caisson étanche avec la dragonne peut causer des fuites d'eau.

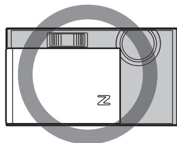
1 Mettez l'appareil photo sous tension.

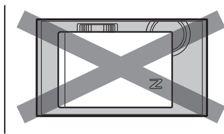


Open the lens cover.

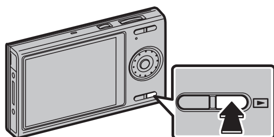
Veillez à ne pas toucher l'objectif lorsque vous ouvrez son capuchon.

Assurez-vous que le capuchon de l'objectif s'ouvre correctement. Si le capuchon de l'objectif ne s'ouvre pas correctement, l'appareil risque de ne pas se mettre sous tension.





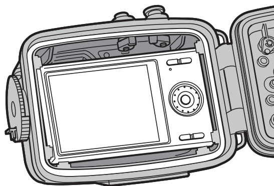
2 Mettez l'appareil photo hors tension.



Appuyez sur la touche "POWER"/▶ Lecture et passez en mode Lecture. Ensuite, appuyez sur la touche Lecture pendant quelques instants.

FRANÇAIS

3 Ouvrez le caisson étanche (P.8), puis insérez l'appareil photo.

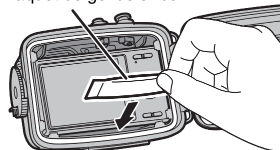


Glissez l'appareil photo dans le caisson jusqu'à ce qu'il soit correctement bloqué.

(!) Lorsque vous placez l'appareil photo dans le boîtier étanche, vérifiez si le capuchon de l'objectif est bien ouvert. Si vous refermez le capuchon de l'objectif, il peut engendrer des fuites d'eau. Il est alors impossible de photographier sous l'eau.

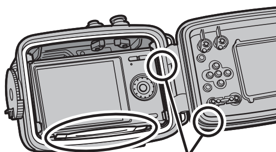
(!) Veillez à placer correctement l'appareil photo dans le caisson étanche.

4 Insérez le paquet de gel de silice dans l'espace, sous la base de l'appareil photo.



(!) Assurez vous que le paquet de gel de silice soit correctement installé. S'il est incomplètement inséré, il empêchera le joint torique d'agir et l'eau entrera.

5 Assurez-vous des points suivants avant de fermer le caisson étanche.



- Aucune partie du paquet de gel de silice ne doit dépasser.
- Il ne doit y avoir aucune poussière, cheveux, ou autres corps étrangers sur le joint torique, dans la rainure du joint torique, ou sur le côté du caisson étanche qui correspond au joint torique.
- L'appareil photo doit être correctement posé et aligné dans le caisson étanche.

6 Lorsque toutes les vérifications sont effectuées, refermez le caisson étanche (P.10).

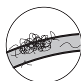
→ Vérifiez que la touche "POWER"/▶ Lecture de l'appareil photo peut être correctement actionnée à l'aide des commandes du boîtier.

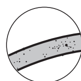
(!) Lorsque vous fermez le caisson étanche, veillez à ne pas vous coincer les doigts ou la main.

Pour éviter les fuites d'eau

Toutes les particules étrangères attachées au joint torique peuvent causer des fuites d'eau. Enlevez-les (voir P.21). Si vous ne pouvez pas les enlever, remplacez le joint torique par un neuf.


Cheveux

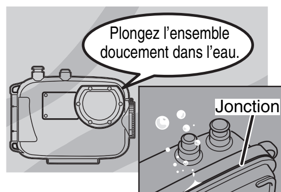

Fibres


Sable

Effectuez un essai final

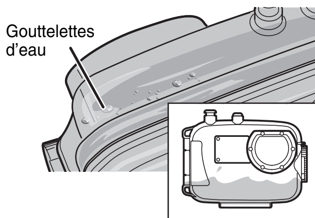
Effectuez un essai final d'immersion du caisson étanche après montage de l'appareil photo numérique. Vérifiez si vous apercevez des fuites d'eau lorsque vous immergez le caisson dans une bassine ou une baignoire remplie d'eau. Si besoin est, c'est-à-dire si vous apercevez une fuite d'eau, soyez prêt à retirer l'ensemble immédiatement de l'eau (afin de protéger l'appareil photo à l'intérieur).

1 Immergez l'ensemble dans l'eau pendant 30 secondes.



- Si vous voyez un écoulement continu de bulles d'air à partir du joint du caisson étanche dans l'eau, ceci indique une fuite.
- Si, au contraire tout va bien, actionnez les boutons et prennez quelques photos d'essai dans l'eau.

2 Après avoir soulevé doucement le caisson étanche hors de l'eau, vérifiez attentivement ce qui suit :



- Gouttelettes d'eau près du joint du caisson étanche.
- Traces d'eau à l'intérieur du caisson étanche.

FRANÇAIS

Si des gouttelettes d’eau sont détectées ...

① Enlevez immédiatement le caisson étanche de l’eau et séchez en l’extérieur.
② Enlevez l’appareil photo numérique du caisson étanche. Si vous voyez des gouttes d’eau sur l’appareil photo numérique, essuyez-les immédiatement.

(!) Lorsque vous retirez l’appareil photo du caisson étanche, ouvrez le caisson étanche objectif vers le bas afin d’éviter que l’appareil photo ne tombe. De plus, lorsque vous ouvrez le caisson étanche, veillez à ne pas vous coincer les doigts ou la main.

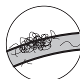
③ Vérifiez qu’il n’y a aucune fissure dans le corps du caisson étanche. Examinez le joint torique pour vous assurer qu’il n’y a pas de particules étrangères, de défauts, fissures, ou déformations ou torsions. Examinez également la rainure du joint torique pour vous assurer qu’aucune particule étrangère ne s’y est glissée.
④ Si tout est bien, recommencez en utilisant le procédé détaillé en P.8.

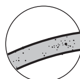
(!) Si vous trouvez des anomalies dans le caisson étanche, arrêtez immédiatement de l’utiliser et prenez contact avec votre revendeur FUJIFILM.

(!) Si l’eau est entrée dans le corps de l’appareil photo, cessez immédiatement de l’utiliser et prenez contact avec votre revendeur FUJIFILM. Utiliser l’appareil photo dans un état défectueux peut causer une décharge électrique ou un début d’incendie. Ne l’utilisez jamais dans cet état, dans aucune circonstance.

N’importe quel genre de particule étrangère attachée au joint torique peut causer une fuite d’eau. Enlevez les particules étrangères en suivant les instructions données en P.21.

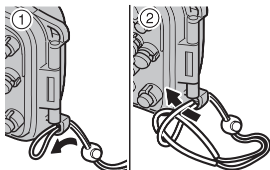

Cheveux


Fibres


Sable

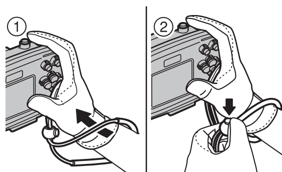
Fixation de la dragonne

1 Fixez la dragonne au caisson étanche.



Attachez la dragonne au caisson étanche comme montré en ① et ②.

2 Serrez-la bien autour de votre poignet.

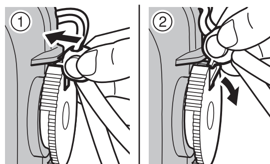


① Mettez votre main et votre poignet à l'intérieur de la dragonne.
② Pour réduire le risque de laisser tomber l'appareil photo, serrez la dragonne autour de votre poignet à l'aide du régleur.

FRANÇAIS

Ouverture du caisson étanche à l'aide du régleur de la dragonne

Lors de l'ouverture du caisson étanche, vous pouvez également utiliser le régleur de la dragonne si vous ne possédez pas le stylet.



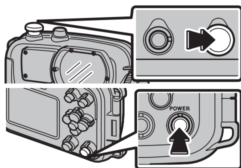
① Insérez l'onglet du régleur comme indiqué dans l'illustration.
② Libérez le blocage du bouton d'ouverture/fermeture.

(!) N'utilisez pas le régleur de la dragonne pour retirer le joint torique. Des fuites d'eau risquent de se produire si le joint torique est endommagé ou contaminé par les particules étrangères.

Prises de vues

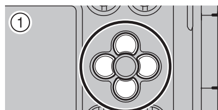
- En utilisant le caisson étanche, vous pouvez prendre des photos jusqu'à 40 m sous l'eau.
- Les fonctions de l'unité correspondent à celles de l'appareil photo. Pour obtenir les instructions de fonctionnement ou pour connaître les fonctions de l'appareil photo, reportez-vous au mode d'emploi fourni avec l'appareil photo.

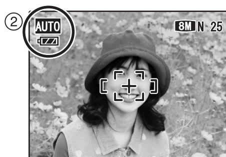
1 Mettez l'appareil photo sous tension.



Appuyez sur la touche "POWER"/▶ Lecture, puis sur le déclencheur.

2 Sélectionnez le mode Photographie.





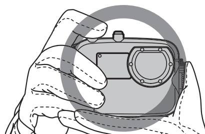
① Appuyez sur la touche de direction pour passer en mode Photo.
② Vérifiez le mode photographie sur l'écran LCD.

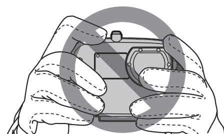
Prenez quelques photos avant de mettre le caisson dans l'eau.

ⓘ Lorsque vous activez le mode Photo à l'aide de la touche de direction du boîtier étanche, assurez-vous que l'indication du mode apparaît sur l'écran LCD.

3 Tenez le caisson étanche fermement avec les deux mains.

ⓘ Tenez fermement l'appareil photo en prenant soin de ne pas obstruer l'objectif ou le flash avec vos doigts ou avec la dragonne. Si l'objectif ou le flash est obstrué, le sujet risque de se retrouver hors champ ou la luminosité (exposition) de votre photo ne sera pas optimale.





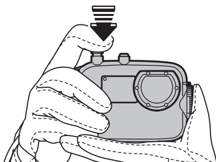
4 Effectuez des prises de vues.

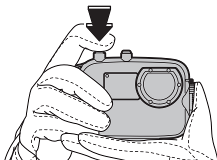
① Appuyez à mi-course sur le déclencheur pour faire la mise au point.

② Appuyez à fond sur le déclencheur pour prendre une photo.

(!) Quand vous appuyez légèrement sur le déclencheur, vous sentez une résistance à mi-course. C'est à ce point que sont réglées la mise au point et la luminosité.

(!) Il n'est pas possible d'appuyer à mi-course sur le déclencheur en mode vidéo.





À propos du mode PLONGEE



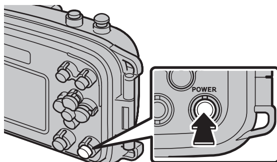
Réglez le mode Photographie sur "🐟 PLONGEE". Les couleurs bleues en arrière-plan ressortent parfaitement.

(!) Pour plus d'informations, reportez-vous au mode d'emploi fourni avec l'appareil photo.

FRANÇAIS

Après les prises de vues (stockage)

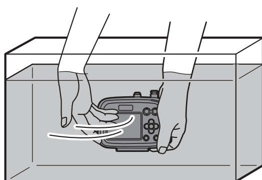
1 Mettez l'appareil photo hors tension.



Appuyez sur la touche "POWER"/▶ Lecture et passez en mode Lecture. Ensuite, appuyez sur la touche Lecture pendant quelques instants.

(!) Assurez-vous que l'alimentation électrique est vraiment coupée.

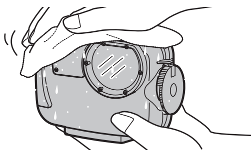
2 À l'issue des prises de vues, **remplissez** immédiatement un seau **d'eau douce** de mer salée.



Veillez à bien rincer l'extérieur du caisson étanche en remuant l'eau à la main.

(!) Si du sel reste sur le caisson, cela peut causer de la corrosion, des défauts de fonctionnement et autres problèmes.

3 Essuyez soigneusement les gouttelettes d'eau sur le caisson étanche.

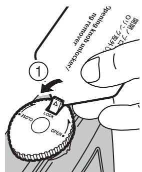


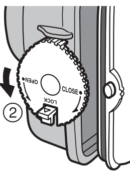
En particulier, essuyez soigneusement les gouttelettes du joint du caisson étanche.

(!) Utilisez un morceau de tissu doux et non pelucheux ou quelque chose de semblable.

(!) Enlevez les gouttelettes d'eau sous le déclencheur, le bouton d'ouverture/fermeture, etc.

4 Sortez l’appareil photo du caisson étanche.







① Libérez le blocage du bouton d’ouverture/fermeture.

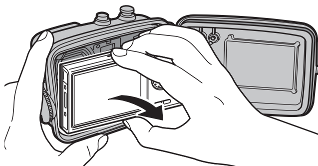
② Tournez le bouton d’ouverture/fermeture dans la direction de la flèche “OPEN”, ouvrez lentement le caisson étanche afin que des gouttes d’eau ne tombent pas dans l’appareil.

(!) Avant d’ouvrir le caisson étanche, assurez-vous que vos mains et vos cheveux sont secs et que rien ne s’égouttera sur l’appareil photo et à l’intérieur du caisson étanche.

(!) Lorsque vous ouvrez le caisson étanche, veillez à ne pas vous coincer les doigts ou la main.

(!) Si vos mains sont mouillées, veuillez absolument à ne pas toucher l’appareil photo ou la batterie.

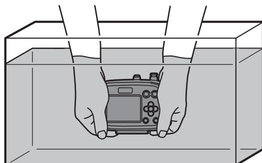
(!) N’ouvrez pas le caisson étanche dans des endroits où l’intérieur pourrait être mouillé ou recevoir du sable.



③ Sortez l’appareil photo du caisson étanche.

(!) Lorsque vous retirez l’appareil photo du caisson étanche, ouvrez le caisson étanche objectif vers le bas afin d’éviter que l’appareil photo ne tombe.

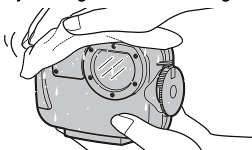
5 Après avoir retiré l'appareil photo du caisson étanche, vérifiez qu'il n'y a aucune gouttelette d'eau ou de particules étrangères sur le joint torique, fermez le caisson étanche et tournez le bouton d'ouverture/fermeture dans la direction de la flèche « CLOSE » pour le sceller et le rendre étanche. **Lavez-le complètement avec de l'eau douce de nouveau.**



Essayez d'enlever tout sel resté en tournant légèrement les divers touches dans l'eau.
Nous vous recommandons de le laisser tremper dans de l'eau claire environ 1 heure.

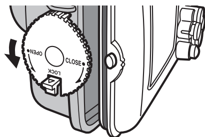
- Si le caisson est stocké avec des gouttes d'eau salée à l'extérieur, les cristaux de sel obstrueront le mouvement du bouton d'ouverture/fermeture ainsi que d'autres pièces. Cela peut également entraîner de la corrosion.
- Lorsque vous fermez le caisson étanche, veillez à ne pas vous coincer les doigts ou la main.

6 Essuyez soigneusement les gouttelettes d'eau sur le caisson étanche.



- Utilisez un morceau de tissu doux et non pelucheux ou quelque chose de semblable.
- Enlevez les gouttelettes d'eau sous le déclencheur, le bouton d'ouverture/fermeture, etc.

7 Ouvrez légèrement le caisson étanche et séchez-le dans un endroit frais hors de la lumière directe du soleil. Après avoir séché le caisson, mettez-le où il ne sera pas directement exposée à la lumière du soleil.



- N'employez pas un sèche-cheveux, de l'air tiède ou chaud, ou la lumière directe du soleil pour sécher le caisson étanche.

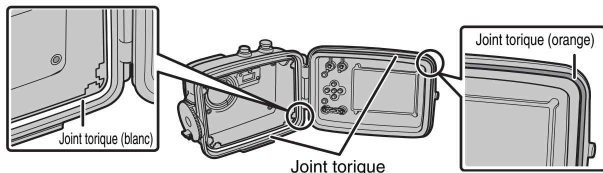
Si le caisson étanche n'est pas utilisé pendant longtemps, retirez le joint torique et conservez le caisson étanche en sécurité. Pour retirer le joint torique, voir la P.21.

Entretien

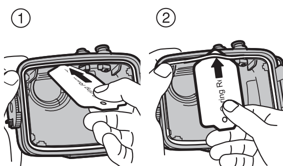
Entretien après utilisation

Faites toujours ceci juste après l'utilisation du caisson étanche. Vérifiez que le joint torique n'a subit aucune fissure ou détérioration causée par des particules étrangères.

1 Retirez le joint torique du caisson étanche.

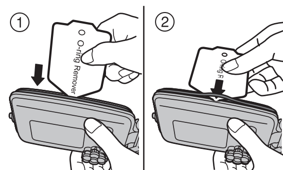


Joint torique pour le face avant (blanc)



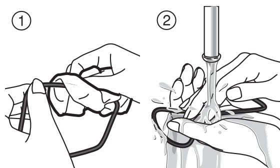
① Insérez le stylet entre le joint torique et la rainure du joint torique.
② Insérez le bout du stylet sous le joint torique. Ne pas rayer la rainure avec le bout du stylet.
③ Saisissez le joint torique entre vos doigts et enlèvez-le du caisson étanche.

Joint torique pour le côtè dos (orange)



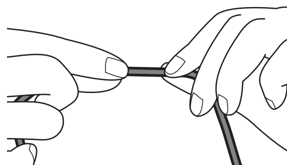
FRANÇAIS

2 Retirez la graisse et les particules, telles que fibres ou sable, du joint torique.



① Essuyez les particules du joint torique à l'aide d'un chiffon doux et non pelucheux.
② Après avoir rincé le joint torique à l'eau claire, séchez-le sans l'essuyer afin d'empêcher que des fibres s'y attachent.

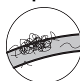
3 Prenez le joint torique et glissez vos doigts dessus, soigneusement et en exerçant une légère pression tout le long pour vérifier qu'il n'y a ni bosselures ni dommages ou fissures causés par des particules étrangères (vous pouvez sentir ces derniers avec le bout du doigt).

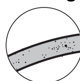


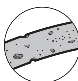
(!) Faites attention, lorsque vous tirez le joint torique, de ne le détendre en le tirant trop fort.

Exemples des particules étrangères et de dommages

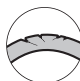

Cheveux


Fibres

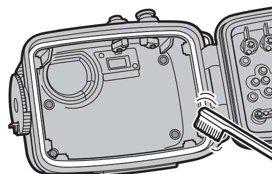

Sable


Eraflures causées par des particules étrangères


Défaut

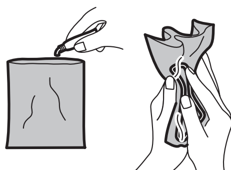

Fissure

4 Enlevez toutes les particules étrangères de la rainure du joint torique en utilisant un coton tige ou une brosse à dents.



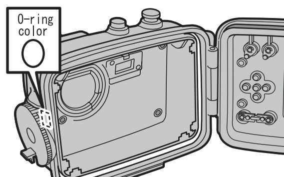
Vérifiez soigneusement qu'aucunes fibres du coton tige ne soit laissées.

5 Enduisez le joint torique avec la graisse spéciale.

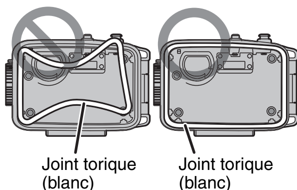


Pour appliquer uniformément la graisse de silicone sur le joint torique, serrez le tube pour sortir environ 5 mm de la graisse fournie. Mettez-la dans un sac plastique propre (d'environ 10 cm × 20 cm) et malaxez-la complètement. Après, mettez le joint torique dans le sac plastique et continuez de malaxer jusqu'à ce que le joint soit complètement couvert de graisse. Le sac plastique peut être employé plus d'une fois s'il est maintenu propre.

6 Posez le joint torique du côté avant (blanc).



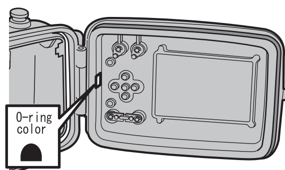
Pour une installation correcte, vérifiez l'autocollant (blanc) à l'intérieur du caisson étanche.



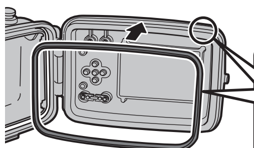
Posez le joint torique du côté avant dans le caisson étanche et ensuite vérifiez qu'il n'est pas tordu.
S'il n'est pas tordu, installez-le attentivement afin qu'il n'y ait ni corps étrangers ni poussière.

FRANÇAIS

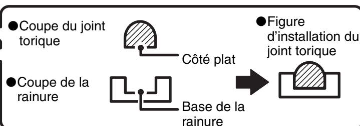
7 Posez le joint torique du dos (orange).

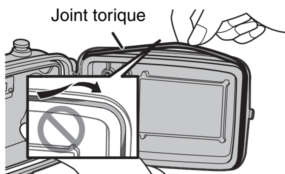


Pour une installation correcte, vérifiez l'autocollant (orange) à l'intérieur du caisson étanche.



Appliquez le côté plat du joint torique à la base de la rainure.





Vérifiez lors de l'installation que le joint torique **n'est pas tordu, plié, faisant saillie hors de la rainure**.

(!) Vérifiez si les deux joints toriques sont bien installés.

(!) Lors de la maintenance du joint torique, veillez particulièrement à éviter de mettre de la graisse sur la fenêtre d'objectif et sur la fenêtre de moniteur LCD. Si la fenêtre d'objectif ou la fenêtre l'écran LCD est sale, essuyez-la doucement avec un chiffon doux et sec.

Notes pour employer le caisson étanche correctement

- N'employez pas, et ne gardez pas non plus le caisson étanche à des températures dépassant +40 °C.
- Ne l'employez pas dans de l'eau dont la température excède +40 °C, car alors il pourrait fuir.
- N'employez pas du diluant, benzène, alcool, ou d'autres produits chimiques volatils pour le nettoyage. L'application de tels produits chimiques sur le caisson étanche peut en endommager la surface, et causer des fissures sous haute pression.
- Ne surchargez pas la monture de trépied.
- Ne cognez pas, ne donnez pas d'impacts forts au caisson étanche.
- Ne jettez pas le caisson étanche dans l'eau.
- Si vous employez le caisson étanche dans l'eau de mer, lavez-le dans un seau d'eau douce pour en enlever le sel, tandis qu'il est encore fermé et étanche. Séchez ensuite l'extérieur du caisson, en utilisant un morceau de tissu sec et doux.
- Ce produit est conçu pour être employé dans l'eau comme caisson étanche. Ne le laissez pas, ne le stockez pas non plus avec l'appareil photo à l'intérieur : la batterie peut fuir et même déclencher un feu.

■ Pour éviter des fuites d'eau

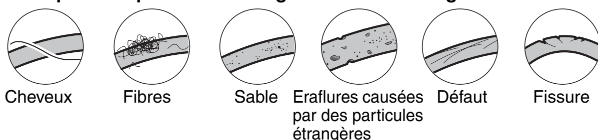
Si ce caisson fuit tandis que vous l'employez et mouille l'appareil photo numérique à l'intérieur, l'appareil photo ne peut pas être réparé. Prenez les précautions suivantes avant utilisation.

- La vie standard d'un joint torique est d'environ un an, bien qu'elle dépende des conditions d'utilisation. Changez le joint torique par un neuf une fois par an.
- Les particules étrangères attrapées par le joint torique peuvent causer une fuite d'eau. Essuyez-les, en vérifiant qu'aucune fibre n'est collée au joint torique. Si une particule étrangère ne peut pas être enlevée facilement, essayez de l'enlever en lavant dans l'eau.
- Si le joint torique est rayé, fendu, décoloré ou déformé, remplacez-le par un neuf.
- Lors du remplacement du joint torique, nettoyez d'abord la rainure du joint torique et vérifiez qu'elle est exempte de grains de sable, de poussières, de cheveux ou poils, et d'autres particules étrangères.
- Pour le joint torique, employez la graisse de silicone de la marque spécifiée qui est recommandée par FUJIFILM.
- Si le joint torique n'est pas posé correctement, une fuite d'eau peut se produire. En mettant le joint torique, veuillez à ce qu'il reste bien dans la rainure et qu'il ne soit ni tordu ni débordant la rainure (P.23).
- Ne laissez pas le caisson étanche à la lumière du soleil directe en été, dans un véhicule fermé, ou à côté d'équipement de chauffage. N'appliquez aucune force externe pendant une longue durée au caisson étanche. La déformation causée par la chaleur ou la force peut causer une perte d'étanchéité, le rendant inutilisable dans l'eau.
- Faites attention de ne pas endommager le joint torique ou le côté qui le touche en frappant ou en laissant des particules étrangères (sable, poussière ou cheveux) entre eux.

Notes pour employer le caisson étanche correctement

- N'ultisez le caission étanche qu'après un essai d'immersion et un essai final.
- Si vous avez trouvé des signes de fuite d'eau tout en prenant des photos, retirez immédiatement le produit hors de l'eau. Examinez la cause et prenez les mesures appropriées.

Exemples des particules étrangères et de dommages



Cheveux | Fibres | Sable | Eraflures causées par des particules étrangères | Défaut | Fissure

Caractéristiques

Appareil avec lequel le produit devrait être utilize	Appareil photo numérique de FinePix Z100fd
Résistance à la pression	Jusqu'à 40 m de profondeur dans l'eau maximum
Matériaux principaux	Caisse : polycarbonate transparent Fenêtres d'objectif : Verre trempé
Dimensions (W × H × D)	128 mm × 91 mm × 60 mm (accessoires compris)
Poids	Environ 247 g (l'appareil photo et les accessoires ne sont pas inclus.)

✻ Sous réserve de modifications sans préavis. FUJIFILM n'acceptera aucune responsabilité à la suite de dégâts éventuels proventuels provenant d'erreurs dans ce mode d'emploi.

Guide des accessories

- **Jeu de paquets de gel de silice (SST-01)**
  Agent dessiccant destiné à réduire le flou de l'objectif (Paquet de gel de silice x 6)
- **Kit pour joints toriques (ORK-FXZ100)**
  Kit d'entretien en option (Joint torique de réserve x 1 de chaque modèle, stylet pour libérer le bouton d'ouverture/enlever le joint torique x 1)
- **Graisse de silicone spéciale (SGR-01)**
  Graisse de silicone spéciale pour l'entretien du joint torique (Graisse de silicone spéciale x 1)

Memo

FRANÇAIS

Sicherheitshinweise

Vielen Dank für den Kauf dieses Produktes.
Bevor Sie dieses Produkt verwenden, lesen Sie unbedingt diese Bedienungsanleitung, insbesondere die Sicherheitshinweise und ebenfalls die Bedienungsanleitung für die Digitalkamera. Nachdem Sie diese durchgelesen haben, halten Sie diese zur Hand, so dass Sie dort jederzeit schnell nachschlagen können.

■ Die folgenden Symbole werden in diesem Dokument verwendet, um den Schweregrad der Verletzungen oder Schäden anzuzeigen, die entstehen können, wenn die mit dem Symbol gekennzeichnete Information ignoriert oder das Produkt nicht ensprechend bedient wird.

 **WARNUNG**	Dieses Symbol zeigt an, dass es bei Nichtbeachtung der Information zu schweren Verletzungen führen kann.
 **VORSICHT**	Dieses Symbol zeigt an, dass es bei Nichtbeachtung der Information zu persönlichen Verletzungen oder Sachschäden führen kann.

■ Die folgenden Symbole zeigen die Art der zu beachtenden Information an.

	Dreieckige Symbole weisen den Benutzer auf eine Information hin, die beachtet werden muss ("Wichtig").
	Kreisförmige Symbole mit einem diagonalen Strich weisen den Benutzer darauf hin, dass die angegebene Aktion verboten ist ("Verboten").
	Gefüllte Kreise mit einem Ausrufezeichen weisen den Benutzer auf eine Maßnahme hin, die durchgeführt werden muss ("Erforderlich").

 **WARNUNG**

 Nicht auseinandernehmen.	**Versuchen Sie niemals, dieses Produkt zu modifizieren oder auseinanderzunehmen.** Dies kann zu Wassereintritt führen.
	**Legen Sie dieses Produkt nicht auf eine schräge oder sich bewegende Oberfläche.** Dies kann dazu führen, dass das Produkt herunter- oder umfällt und Schäden oder Verletzungen verursacht.
	**Verwenden Sie nur Akkus, die für den Gebrauch mit dieser Kamera spezifiziert sind.** Die Verwendung von anderen Stromquellen kann zu Feuergefahr führen.
	**Verwenden Sie den Akku nur auf die spezifizierte Weise.** Laden Sie den Akku gemäß der Anzeige.
	**Diesen Akku niemals erhitzen oder modifizieren und niemals versuchen, ihn zu zerlegen. Lassen Sie den Akku nicht fallen, und setzen Sie ihn keinen Stößen aus. Schließen Sie den Akku nicht kurz. Lagern Sie den Akku nicht zusammen mit anderen metallischen Produkten. Verwenden Sie zum Aufladen des Akkus keine anderen Ladegeräte als das dafür spezifizierte Modell.** Wird eine der oben aufgeführten Anweisungen nicht beachtet, kann der Akku explodieren oder auslaufen und somit Feuer oder Verletzungen verursachen.



Außerhalb der Reichweite von Kleinkindern halten.
Dieses Produkt kann in den Händen eines Kindes zu Verletzungen führen.



Seien Sie vorsichtig, wenn Sie das Unterwassergehäuse mit angebrachtem Handgurt verwenden.
Dies könnte zu unerwarteten Schwingungen des Gehäuses führen und infolgedessen Schäden oder Verletzungen verursachen.



Belassen Sie das Unterwassergehäuse nicht in direktem Sonnenlicht oder an Orten mit extrem hohen Temperaturen.
Falls der Druck im Inneren des Gehäuses aufgrund der Hitze ansteigt, kann sich der Deckel schlagartig öffnen und zu Verletzungen führen.



Essen Sie nicht das für den Gebrauch mit diesem Produkt bestimmte Silikagel oder Fett.
Falls Silikagel oder Fett in Ihren Mund gelangt oder verschluckt wird, wenden Sie sich sofort an einen Arzt.



VORSICHT



Lassen Sie dieses Produkt nicht fallen, oder schlagen Sie es nicht gegen harte Objekte.
Dadurch könnte das Produkt Sprünge bekommen und Wassereintritt verursachen.



Nehmen Sie den Akku aus der Kamera,wenn Sie die Kamera reinigen oder vorhaben,diese für längere Zeit nicht zu gebrauchen.
Nichteinhaltung dieser Maßnahme kann zum Auslaufen des Akkus oder zu Feuergefahr führen.



Verwenden Sie das Blitzlicht nicht zu nahe an den Augen einer Person.
Die Sehkraft kann vorübergehend beeinträchtigt werden. Lassen Sie besondere Vorsicht walten, wenn Sie Babys oder Kleinkinder fotografieren.



Öffnen oder schließen Sie dieses Produkt nicht an sandigen oder staubigen Orten.
Falls ein Sandkorn oder Staub an dem O-Ring haftet, kann es zu Wassereintritt führen.



Belassen Sie dieses Produkt nicht an einem Ort mit extrem hohen oder niedrigen Temperaturen.
Dies kann zu Fehlbetrieb führen.



Falls Wasser in die Kamera eintritt, entfernen Sie sofort den Akku aus der Kamera.



Verwenden Sie dieses Produkt nicht in Tiefen von mehr als 40m unter der Wasseroberfläche.
Es kann zu Fehlbetrieb führen.

Inhalt

Vorbemerkungen

- FUJIFILM Corporation übernimmt keine Haftung für Verluste (wie z.B. die Kosten für Fotoabzüge oder den Verdienstausfall bei nicht gelungenen Fotos), die auf Fehler an diesem Produkt zurückzuführen sind.

■ Lesen Sie vor der Verwendung unbedingt das Folgende

- Dieses Unterwassergehäuse ist für eine Wassertiefe von bis zu 40m konstruiert. Behandeln Sie das Gehäuse vorsichtig.
- Bitte folgen Sie den Richtlinien in dieser Anleitung hinsichtlich der Vorbereitung des Unterwassergehäuses vor der Verwendung, der vorläufigen Kontrolle, der Wartung des Gehäuses und der Aufbewahrung nach der Verwendung. Behandeln Sie dieses Produkt nur nach der Beschreibung dieser Anleitung.
- FUJIFILM Corporation entschädigt nicht für etwaige Beschädigungen der Digitalkamera oder Verluste aufgrund von ungeeigneter Verwendung des Unterwassergehäuses.
- FUJIFILM Corporation entschädigt nicht für persönliche Verletzungen, Todesfolge oder Sachschäden, die auf Mängel an diesem Produkt zurückzuführen sind.

Mitgeliefertes Zubehör

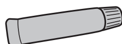
- **Handgurt (1)**



- **Ausbauwerkzeug (1) (zum Öffnen des Drehkopfes / O-Ring-Entferner)**



- **Spezial-Silikonfett (1)**



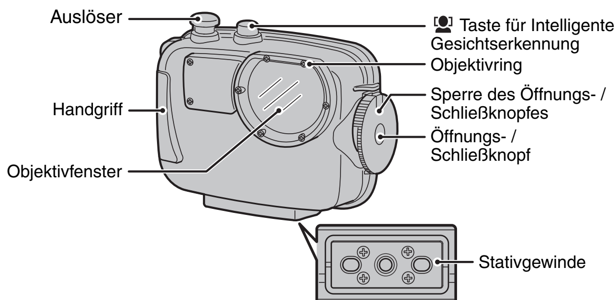
- **Bedienungsanleitung (dieses Handbuch)**
- **Schnellwartungsanleitung**
- **Hinweisblatt**

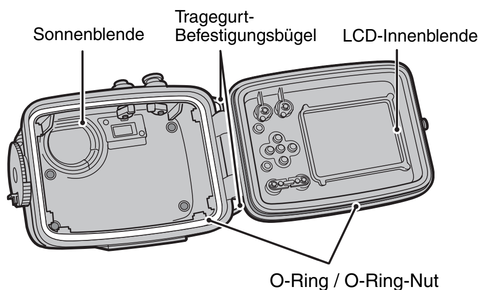
- **Silikagel-Packung (3)**

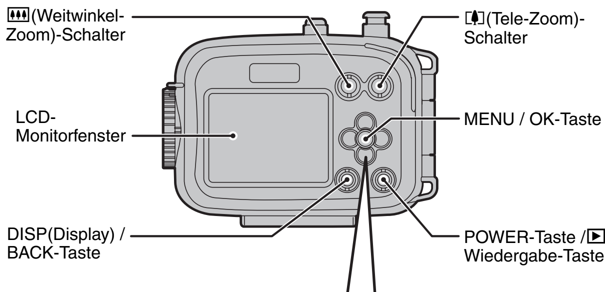


DEUTSCH

Bezeichnung der Teile







▲▼◀▶ Richtungstaste

[Beim Aufnehmen]

◀/ Makro-Taste

▶/ Blitztaste

▲/ Belichtungskorrektur-Taste

▼/ Selbstauslöser-Taste

[Bei der Wiedergabe]

▲/ Löschen-Taste

- Die Funktionen der Regler entsprechen den einzelnen Betätigungsarten der Kamera. Vergewissern Sie sich über die Funktionen der Regler in der “Bedienungsanleitung” für die Digitalkamera.
- Bei Erwerbszustand dieses Gerates ist eine Schutzfolie an dem LCD-Monitorfenster angebracht. Ziehen Sie diese Folie vor der Benutzung unbedingt ab.
- Nehmen Sie für die IR-Übertragung die Kamera aus dem Unterwassergehäuse. Wenn sich die Kamera im Unterwassergehäuse befindet, ist die IR-Übertragung unter Umständen nicht möglich.

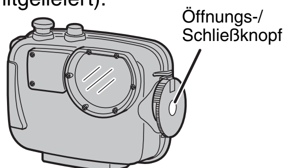
Vorbereitende Überprüfung des Gehäuses

Führen Sie vor dem Einsetzen der Digitalkamera eine vorläufige Eintauchprüfung des Unterwassergehäuses durch

Stellen Sie, bevor Sie die Kamera in das Gehäuse einsetzen, sicher, dass kein Wasser eindringt.

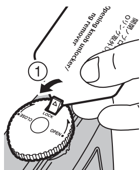
1 Kontrollieren Sie die Außenseite des Unterwassergehäuses und stellen Sie sicher, dass weder Sprünge noch Kratzer vorhanden sind.

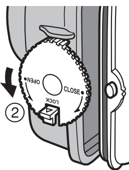
2 Öffnen Sie das Unterwassergehäuse mit dem Ausbauwerkzeug (mitgeliefert).





Ausbauwerkzeug (mitgeliefert).



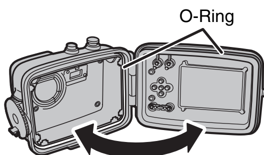


① Geben Sie die Sperre des Öffnungs-/Schließknopfes frei.
② Drehen Sie den Öffnungs-/Schließknopf in Richtung “OPEN”, um das Unterwassergehäuse zu öffnen.

(!) Achten Sie beim Öffnen des Unterwassergehäuses darauf, dass sich Ihre Finger oder Ihre Handfläche nicht im Unterwassergehäuse verfangen.

(!) Wenn Sie nicht über das Ausbauwerkzeug (S. 15) verfügen, können Sie auch die Justierung des Tragegurts verwenden.

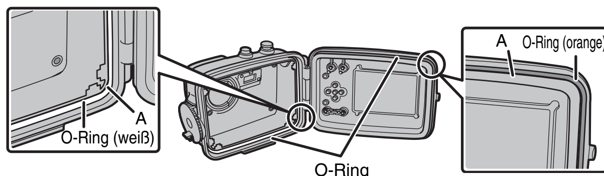
3 Kontrollieren Sie die Innenseite des Unterwassergehäuses auf Folgendes:



- Sprünge (insbesondere rund um den O-Ring)
- Richtige Positionierung des O-Rings (zum richtigen Einsetzen des O-Rings, siehe S.23)
- Dass der O-Ring keine Kratzer, Sprünge, Verformung, Verdrehung oder Ablösung usw. aufweist
- Am O-Ring haftende Sandkörner oder Fremdkörper

4 Wischen Sie mit einem flusenfreien, weichen Tuch o.ä. evtl. am O-Ring und an der Kontaktfläche des O-Rings (Abb. A Position) haftende Fremdkörper ab.

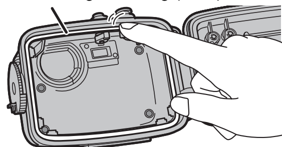
(!) Falls Sie Kosmetiktücher zum Abwischen verwenden, achten Sie darauf, dass keine feinen Fasern zurückbleiben.



5 Überprüfen Sie den angebrachten O-Ring.

Kontrollieren Sie, wie der vorderseitige O-Ring (weiß) eingesetzt ist. Streichen Sie mit den Fingerspitzen über den O-Ring und stellen Sie sicher, dass sich dort keine Stufe befindet. Falls Sie eine Stufe fühlen, könnte der O-Ring verdreht sein. Setzen Sie ihn noch einmal nach der Anleitung auf S.23 ein.

Vorderseitiger O-Ring (weiß)

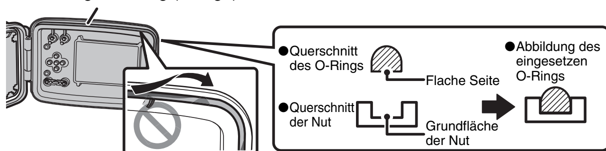


(!) Falls der O-Ring verdreht ist, sich aus der Nut gelöst hat oder ein Fremdkörper eingeklemmt wurde, kann dies Wassereintritt in die Kamera verursachen.

Kontrollieren Sie, wie der hinterseitige O-Ring (orange) eingesetzt ist.

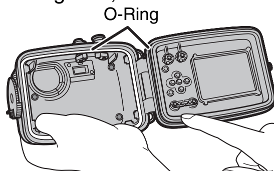
Falls der O-Ring nicht vollständig eingesetzt ist, setzen Sie ihn noch einmal nach der Anleitung auf S.24 ein.

Hinterseitiger O-Ring (orange)



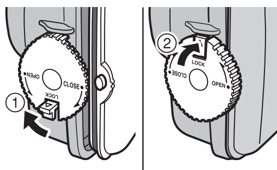
DEUTSCH

6 Falls alles in Ordnung ist, tragen Sie mit sauberem Finger das Spezial-Silikonfett auf. Streichen Sie damit die Oberfläche des O-Rings ein, bis sie vollständig überzogen ist.



- Verwenden Sie nur das mitgelieferte Spezial-Silikonfett.
- Kontrollieren Sie nach dem Auftragen des Fettes, ob keine Sandkörner oder andere Substanzen am O-Ring haften.

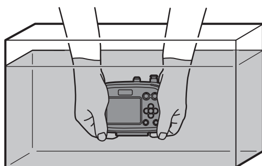
7 Schließen Sie das Unterwassergehäuse.



① Schließen Sie das Unterwassergehäuse, und drehen Sie den Öffnungs-/Schließknopf in Richtung “CLOSE”, um es abzudichten.
② Sperren Sie den Öffnungs-/Schließknopf.

- Achten Sie beim Schließen des Unterwassergehäuses darauf, dass sich Ihre Finger oder Ihre Handfläche nicht im Unterwassergehäuse verfangen.

8 Tauchen Sie das leere Unterwassergehäuse in einen Wassertank oder eine Badewanne ein, und kontrollieren Sie auf Wassereintritt. Wie Sie es kontrollieren sollen, lesen Sie auf S.13.



Falls Wassereintritt festgestellt wird …

① Nehmen Sie sofort das Unterwassergehäuse aus dem Wasser und trocknen Sie die Außenseite.
② Stellen Sie fest, ob das Unterwassergehäuse Sprünge aufweist. Kontrollieren Sie den O-Ring, ob an ihm keine Fremdkörper, Kratzer, Sprünge, Verformung oder Verdrehung vorliegen, und ob sich an der O-Ring-Nut keine Fremdkörper befinden.
③ Falls alles in Ordnung ist, fangen Sie nochmals mit dem Vorgang auf S.8 von vorne an.

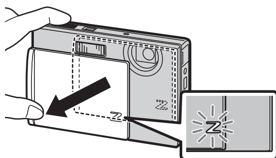
- Falls Sie eventuelle Mängel am Unterwassergehäuse finden, stellen Sie sofort dessen Verwendung ein, und wenden Sie sich an Ihren FUJIFILM Fachhändler.

Einsetzen der Digitalkamera in das Unterwassergehäuse

Überprüfen Sie vor der Montage Folgendes:

- Laden Sie den Akku vor der Verwendung vollständig auf, damit es nicht zu einer niedrigen Batteriespannung während der Unterwasseraufnahmen kommt.
  Ladenzeiten für völlig entleerte Akkus
  NP-45 : ca. 3 Stunden
- Stellen Sie fest, wie viele neue Aufnahmen auf dem Medium noch gespeichert werden können.
- Falls der Handgurt an der Digitalkamera angebracht ist, nehmen Sie diesen unbedingt ab. Die Verwendung der Kamera, wenn sie samt dem Handgurt im Unterwassergehäuse eingesetzt ist, kann Wassereintritt herbeiführen.

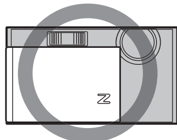
1 Schalten Sie die Kamera ein.

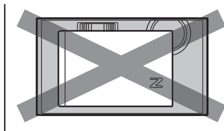


Öffnen Sie den Objektivdeckel.

(!) Achten Sie beim Öffnen des Objektivdeckels darauf, dass Sie das Objektiv nicht berühren.

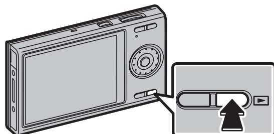
(!) Überprüfen, ob der Objektivdeckel richtig geöffnet ist. Wenn der Objektivdeckel nicht richtig geöffnet wird, lässt sich die Kamera unter Umständen nicht bedienen.





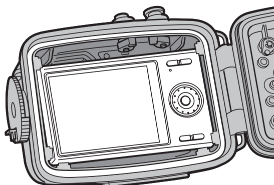
DEUTSCH

2 Schalten Sie die Kamera aus.



Drücken Sie die „POWER"-Taste/ Wiedergabe-Taste und wechseln Sie in den Wiedergabe-Modus. Drücken Sie dann kurz die Wiedergabe-Taste.

3 Öffnen Sie das Unterwassergehäuse (S. 8) und platzieren Sie die Kamera darin.

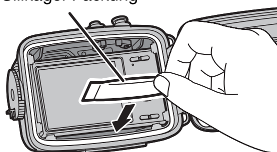


Setzen Sie die Kamera richtig in das Unterwassergehäuse ein.

(!) Wenn Sie die Kamera in das Unterwassergehäuse setzen, stellen Sie sicher, dass sich der Objektivdeckel richtig öffnen lässt. Wenn Sie den Objektivdeckel schließen, kann unter Umständen Wasser eintreten. Außerdem können Sie keine Unterwasseraufnahmen erstellen.

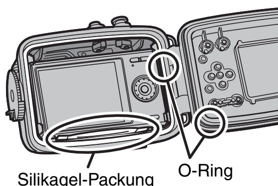
(!) Achten Sie beim Einstellen der Kamera auf die Position der Kamera am Vorsatz.

4 Sie die Silikagel-Packung in den Zwischenraum unter dem Boden der Kamera ein.



(!) Die Silikagel-Packung muss richtig hineingeschoben werden. Falls sie nicht ganz hineingeschoben ist, wird die Funktion des O-Rings als Dichtung verhindert und führt zu Wassereintritt.

5 Überprüfen Sie Folgendes, bevor Sie das Unterwassergehäuse schließen.



- Es darf kein Teil der Silikagel-Packung überstehen.
- Es dürfen kein Staub, keine Haare oder keine Fremdkörper am O-Ring, an der O-Ring-Nut oder an der Seite des Unterwassergehäuses haften, an der der O-Ring montiert ist.
- Die Kamera ist im Unterwassergehäuse richtig positioniert und ausgerichtet.

6 Schließen Sie das Unterwassergehäuse, wenn alles in Ordnung ist (S.10).

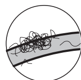
→ Überprüfen Sie, ob die „POWER"-Taste/Wiedergabe-Taste mit den Bedienelementen am Gehäuse richtig bedient werden kann.

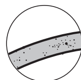
(!) Achten Sie beim Schließen des Unterwassergehäuses darauf, dass sich Ihre Finger oder Ihre Handfläche nicht im Unterwassergehäuse verfangen.

Um Wassereintritt vorzubeugen

Falls Fremdkörper am O-Ring haften, kann es zu Wassereintritt führen.
Entfernen Sie die Fremdkörper (Siehe S.21). Falls Sie sie nicht entfernen können, wechseln Sie den O-Ring gegen einen neuen aus.


Haar


Fluse


Sand

Ausführen einer endgültigen Prüfung

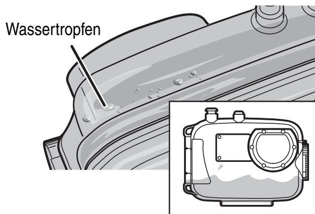
Führen Sie nach dem Einsetzen der Kamera in das Unterwassergehäuse eine endgültige Eintauchprüfung durch. Um auf Wassereintritt zu kontrollieren, tauchen Sie das Unterwassergehäuse in einen mit Wasser gefüllten Wassertank oder eine Badewanne ein, und kontrollieren Sie auf möglichen Wassereintritt. Führen Sie diese Prüfung so aus, durch Sie das Unterwassergehäuse sofort aus dem Wasser herausnehmen können (um die sich innen befindende Kamera zu retten), falls es nötig sein sollte.

1 Lassen Sie das Unterwassergehäuse für 30 Sekunden im Wasser.



- Falls Sie im Wasser Luftblasen aus der Fuge des Unterwassergehäuses ununterbrochen aufsteigen sehen, weist dies auf Wassereintritt hin.
- Falls alles in Ordnung ist, bedienen Sie die Tasten und machen Sie im Wasser einige Probe-Aufnahmen.

2 Nachdem Sie das Unterwassergehäuse langsam aus dem Wasser herausgenommen haben, kontrollieren Sie ganz genau auf Folgendes:



- Wassertropfen in der Nähe der Fuge des Unterwassergehäuses.
- Wasser hat sich an der Innenseite des Unterwassergehäuses angesammelt.

Falls Wassereintritt festgestellt wird …

① Nehmen Sie sofort das Unterwassergehäuse aus dem Wasser und trocknen Sie die Außenseite.
② Nehmen Sie die Digitalkamera aus dem Unterwassergehäuse. Falls Sie Wassertropfen auf der Digitalkamera sehen, wischen Sie diese gleich ab.

(!) Wenn Sie die Kamera aus dem Unterwassergehäuse herausnehmen, öffnen Sie das Unterwassergehäuse so, dass das Objektiv nach unten zeigt, um zu verhindern, dass die Kamera herausfällt. Achten Sie beim Öffnen des Unterwassergehäuses darauf, dass sich Ihre Finger oder Ihre Handfläche nicht im Unterwassergehäuse verfangen.

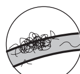
③ Stellen Sie fest, ob das Unterwassergehäuse Sprünge aufweist. Kontrollieren Sie den O-Ring, ob an ihm keine Fremdkörper, Kratzer, Sprünge, Verformung oder Verdrehung vorliegen und ob sich in der O-Ring-Nut keine Fremdkörper befinden.
④ Falls alles in Ordnung ist, fangen Sie nochmals mit dem Vorgang auf S.8 von vorne an.

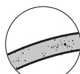
(!) Falls Sie eventuelle Mängel am Unterwassergehäuse finden, stellen Sie sofort dessen Verwendung ein und wenden Sie sich an Ihren FUJIFILM Fachhändler.

(!) Falls Wasser in die Kamera eingedrungen ist, stellen Sie sofort deren Verwendung ein und wenden Sie sich an Ihren FUJIFILM Fachhändler. Falls Sie die Kamera in einem fehlerhaften Zustand betätigen kann es zu Feuer oder elektrischem Schlag führen. Verwenden Sie die Kamera niemals im oben beschriebenen Zustand.

Jegliche Art von Fremdkörper am O-Ring kann Wassereintritt verursachen. Entfernen Sie die Fremdkörper nach der Anweisung auf S.21.

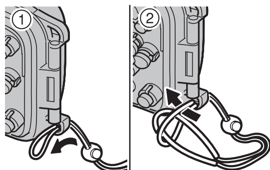

Haar


Fluse


Sand

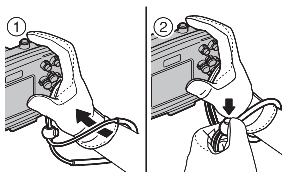
Anbringen des Tragegurts

1 Bringen Sie den Tragegurt am Unterwassergehäuse an.



Bringen Sie den Handgurt am Unterwassergehäuse an, wie es in ① und ② dargestellt ist.

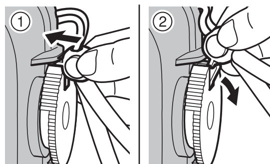
2 Befestigen Sie den Handgurt fest an Ihrem Handgelenk.



① Führen Sie Ihre Hand und Ihr Handgelenk durch den Handgurt.
② Um die Gefahr des Fallenlassens der Kamera zu mindern, befestigen Sie den Handgurt mit dem Einsteller um Ihr Handgelenk.

Öffnen des Unterwassergehäuses mit der Justierung des Tragegurts

Wenn Sie das Unterwassergehäuse öffnen, können Sie auch die Justierung des Tragegurts verwenden, wenn Sie das Ausbauwerkzeug nicht zur Hand haben.



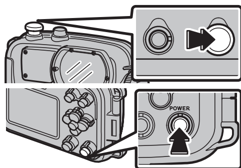
① Setzen Sie die Öse der Justierung ein, wie in der Abbildung gezeigt.
② Geben Sie die Sperre des Öffnungs-/Schließknopfes frei.

(!) Verwenden Sie die Justierung des Tragegurts nicht, um den O-Ring zu lösen. Wenn der O-Ring beschädigt wird oder Fremdkörper daran haften, kann es zu einem Wassereintritt kommen.

Fotografieren

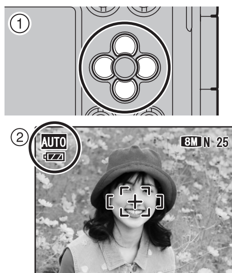
- Unter Verwendung des Unterwassergehäuses können Sie in einer Wassertiefe von bis zu 40m Aufnahmen machen.
- Die Funktionen der Bedienungseinheit entsprechen den einzelnen Operationen der Kamera. Informationen zur Bedienungsanleitung oder den Funktionen der Kamera finden Sie in der Bedienungsanleitung, die im Lieferumfang Ihrer Kamera enthalten war.

1 Schalten Sie die Kamera ein.



Drücken Sie die „POWER”-Taste/▶ Wiedergabe-Taste, und den Auslöser.

2 Stellen Sie den Aufnahmemodus ein.



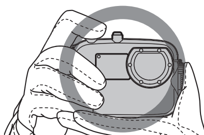
① Drücken Sie die Richtungstaste, um den Aufnahmemodus einzustellen
② Überprüfen Sie den Fotografiermodus auf dem LCD-Monitor.

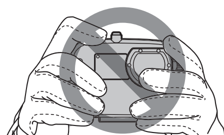
Machen Sie Probeaufnahmen, bevor Sie die Kamera im Gehäuse unter Wasser verwenden.

(!) Nachdem Sie den Aufnahmemodus mit der Richtungstaste eingestellt haben, sollten Sie überprüfen, ob die Modusanzeige auf dem LCD-Monitor angezeigt wird.

3 Halten Sie das Unterwassergehäuse mit beiden Händen fest.

(!) Halten Sie die Kamera so, dass das Objektiv oder der Blitz nicht von Ihren Fingern oder dem Tragegurt verdeckt werden. Wenn das Objektiv oder der Blitz verdeckt werden, kann das Objekt unscharf sein oder die Helligkeit (Belichtung) der Aufnahme ist nicht richtig.





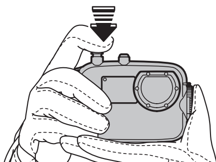
4 Nehmen Sie Bilder auf.

① Drücken Sie den Auslöser zur Hälfte nieder, um das Bild scharf zu stellen.

② Drücken Sie den Auslöser vollständig nieder, um ein Bild aufzunehmen.

(!) Drücken Sie den Auslöser leicht nach unten, bis Sie einen leichten Widerstand spüren. Diese Position wird als erster Druckpunkt bezeichnet. In dieser Position wird der Fokus und die Helligkeit ermittelt.

(!) Während der Filmaufnahme kann der Auslöser nicht bis zur Hälfte niedergedrückt werden.





Zum TAUCHEN



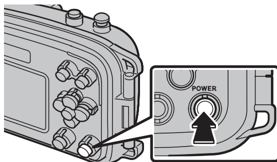
Stellen Sie den Aufnahmemodus auf "TAUCHEN". So können Blautöne im Hintergrund lebhaft dargestellt werden.

(!) Weitere Informationen finden Sie in der Bedienungsanleitung, die im Lieferumfang Ihrer Kamera enthalten war.

DEUTSCH

Nach der Aufnahme (Aufbewahrung)

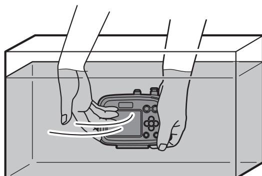
1 Schalten Sie die Kamera aus.



Drücken Sie die „POWER"-Taste/ Wiedergabe-Taste und wechseln Sie in den Wiedergabe-Modus. Drücken Sie dann kurz die Wiedergabe-Taste.

(!) Achten Sie darauf, dass die Stromversorgung der Kamera ausgeschaltet ist.

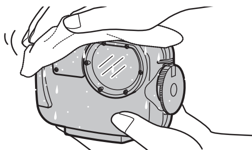
2 Wenn Sie mit den Aufnahmen fertig sind, **füllen** Sie sofort einen Eimer oder anderen Behälter **mit Frischwasser**, um das salzige Meerwasser abzuwaschen.



Achten Sie darauf, die Außenseite des Unterwassergehäuses gut abzuspülen, indem Sie das Wasser mit der Hand rühren.

(!) Falls Reste von Salzablagerung am Gehäuse zurückbleiben, kann dies zu Bildung von Rost, schlechterer Funktion der einzelnen Bedienelemente und anderen Problemen führen.

3 Wischen Sie die Wassertropfen sorgfältig vom Unterwassergehäuse ab.

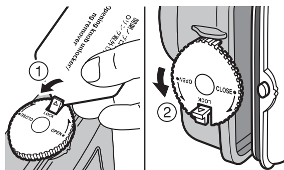


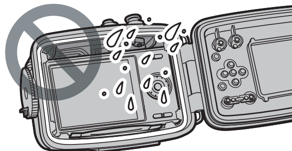
Wischen Sie insbesondere die Tropfen von der Fuge des Unterwassergehäuses sorgfältig ab.

(!) Verwenden Sie ein weiches, flusenfreies Tuch oder Ähnliches.

(!) Entfernen Sie die Wassertröpfchen unter dem Auslöser, dem Öffnungs- /Schließknopf und den anderen Bedienelementen.

4 Nehmen Sie die Kamera aus dem Unterwassergehäuse.





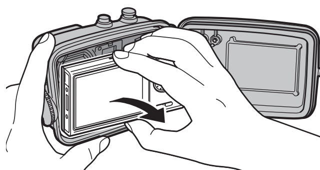
① Geben Sie die Sperre des Öffnungs-/Schließknopfes frei.
② Drehen Sie den Öffnungs-/Schließknopf in Richtung “OPEN” und öffnen Sie das Unterwassergehäuse langsam, um keine Wassertropfen auf die Kamera zu spritzen.

(!) Bevor Sie das Unterwassergehäuse öffnen, beachten Sie dass Ihre Hände und Haare getrocknet sind und keine Wassertropfen auf die Kamera oder in die Innenseite des Unterwassergehäuses gelangen können.

(!) Achten Sie beim Öffnen des Unterwassergehäuses darauf, dass sich Ihre Finger oder Ihre Handfläche nicht im Unterwassergehäuse verfangen.

(!) Falls Ihre Hände nass sind, achten Sie darauf, dass Sie nicht die Kamera oder der Akku anfassen.

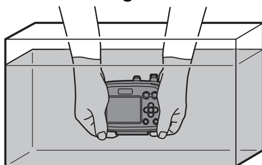
(!) Öffnen Sie das Unterwassergehäuse nicht an Orten, an denen Wasser oder Sand in die Innenseite des Gehäuses gelangen könnte.



③ Nehmen Sie die Kamera aus dem Unterwassergehäuse.

(!) Wenn Sie die Kamera aus dem Unterwassergehäuse herausnehmen, öffnen Sie das Unterwassergehäuse so, dass das Objektiv nach unten zeigt, um zu verhindern, dass die Kamera herausfällt.

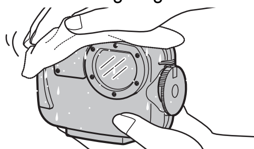
5 Nachdem Sie festgestellt haben, dass keine Wassertropfen oder Fremdkörper am O-Ring haften, schließen Sie das Unterwassergehäuse und drehen den Öffnungs-/Schließknopf in Richtung “CLOSE”, um es fest zuzuschließen. **Waschen Sie das Unterwassergehäuse noch einmal mit Frischwasser gründlich ab.**



Versuchen Sie, alle Reste von Salzablagerung zu entfernen, indem Sie im Wasser auf die einzelnen Knöpfe leicht drücken.
Wir empfehlen, das Gehäuse 1 Stunde in Frischwasser einweichen zu lassen.

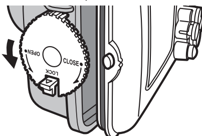
- (!) Falls das Unterwassergehäuse mit nicht abgewischten Salzwassertropfen gelagert wird, können Salzablagerungen die Bewegung des Öffnungs-/Schließknopfes und der anderen Teile verhindern.
- (!) Achten Sie beim Schließen des Unterwassergehäuses darauf, dass sich Ihre Finger oder Ihre Handfläche nicht im Unterwassergehäuse verfangen.

6 Wischen Sie sorgfältig die Wassertropfen vom Unterwassergehäuse ab.



- (!) Verwenden Sie ein weiches, flusenfreies Tuch oder Ähnliches.
- (!) Entfernen Sie die Wassertröpfchen unter dem Auslöser, dem Öffnungs-/Schließknopf und den anderen Bedienelementen.

7 Öffnen Sie das Unterwassergehäuse ein wenig und lassen Sie es an einem gut durchlüfteten und schattigen Ort trocknen. Wenn Sie das Gehäuse getrocknet haben, bewahren Sie es an einem Ort auf, der keinem direkten Sonnenlicht ausgesetzt ist.



- (!) Verwenden Sie keinen Fön, keine Warm- oder Heißluft und kein direktes Sonnenlicht, um das Unterwassergehäuse zu trocknen.

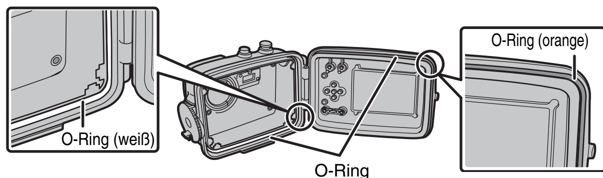
Falls Sie das Unterwassergehäuse langfristig nicht verwenden, nehmen Sie den O-Ring ab und bewahren Sie das Unterwassergehäuse sicher auf. Wie Sie den O-Ring korrekt abnehmen, lesen Sie auf S.21.

Wartung

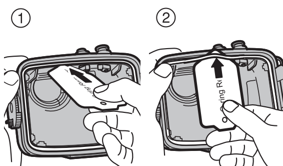
Pflege nach der Verwendung

Führen Sie sofort nach jeder Verwendung des Unterwassergehäuses Folgendes durch. Kontrollieren Sie, ob der O-Ring weder durch Fremdkörper verursachte Dellen noch Kratzer, Sprünge oder andere Beschädigungen aufweist.

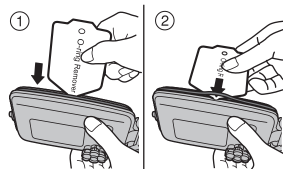
1 Entfernen Sie den O-Ring vom Unterwassergehäuse.



Vorderseitiger O-Ring (weiß)



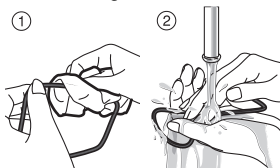
Hinterseitiger O-Ring (orange)



① Führen Sie das Ausbauwerkzeug zwischen den O-Ring und die O-Ring-Nut ein.
② Führen Sie die Spitze des Ausbauwerkzeugs unter den O-Ring. Achten Sie darauf, dass die Nut nicht durch die Spitze des Ausbauwerkzeugs zerkratzt wird.
③ Fassen Sie den hängenden O-Ring mit Ihren Fingern und entfernen Sie ihn aus dem Unterwassergehäuse.

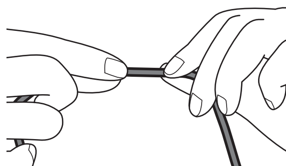
DEUTSCH

2 Entfernen Sie altes Fett und Fremdkörper wie Fasern oder Sand vom O-Ring.



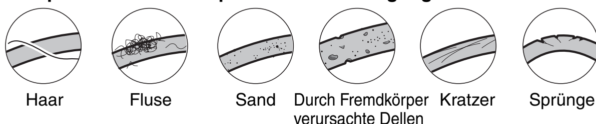
① Wischen Sie Fremdkörper mit einem weichen, fusselfreien Lappen ab.
② Lassen Sie den abgespülten O-Ring trocknen, ohne ihn noch einmal abzuspülen. So verhindern Sie das Anhaften von Fasern.

3 Nehmen Sie den O-Ring mit Ihren Fingern und tasten Sie den ganzen O-Ring unter leichtem Druck ab, um zu kontrollieren, ob er weder durch Fremdkörper verursachte Dellen noch Kratzer, oder durch Alterung entstandene Sprünge aufweist (dies können Sie mit den Fingerspitzen fühlen).

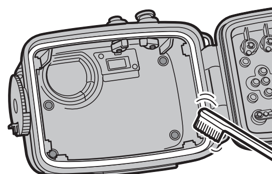


(!) Beim Ziehen des O-Rings durch die Hand, achten Sie darauf, dass Sie ihn nicht zu stark ziehen und der O-Ring nicht ausgedehnt wird.

Beispiele von Fremdkörpern und Beschädigungen

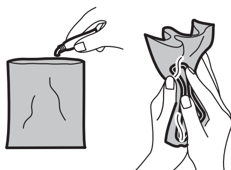


4 Entfernen Sie mit Hilfe einer Zahnbürste oder Wattestäbchen alle Fremdkörper aus der O-Ring-Nut.



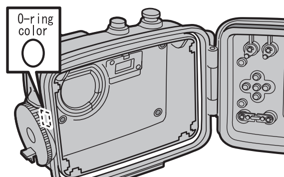
Achten Sie besonders darauf, dass keine Fasern vom Wattestäbchen zurückbleiben.

5 Überziehen Sie den O-Ring mit Spezialfett.

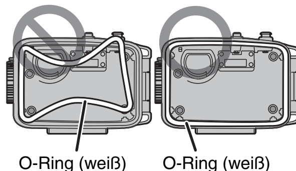


Um das Silikonfett gleichmäßig dünn auf den O-Ring aufzutragen, drücken Sie eine Fettraupe mit einer Länge von ca. 5 mm aus der mitgelieferten Tube in einen sauberen Plastikbeutel (Größe ca. 10 cm × 20 cm) heraus, und kneten Sie diese durch. Setzen Sie danach den O-Ring in den Plastikbeutel ein und kneten diesen weiter, bis der O-Ring mit dem Fett völlig überzogen ist. Der Plastikbeutel kann mehr als einmal verwendet werden, wenn er sauber gehalten wird.

6 Setzen Sie den vorderseitigen O-Ring (weiß) ein.

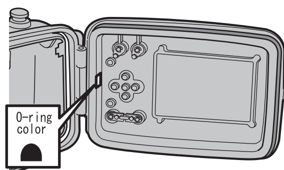


Damit Sie ihn nicht verwechseln, achten Sie auf den Aufkleber (weiß) an der Innenseite des Unterwassergehäuses.

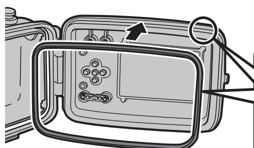


Legen Sie den O-Ring erst einmal auf das Unterwassergehäuse und stellen Sie sicher, dass er nicht verdreht ist. Falls er nicht verdreht ist, setzen Sie ihn ein. Achten Sie dabei darauf, dass keine Fremdkörper eingeklemmt sind und kein Staub anhaftet.

7 Setzen Sie den hinterseitigen O-Ring (orange) ein.

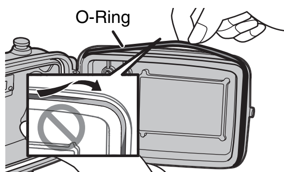


Damit Sie ihn nicht verwechseln, achten Sie auf den Aufkleber (orange) an der Innenseite des Unterwassergehäuses.



Richten Sie die flache Seite des O-Rings an die Grundfläche der Nut.





Kontrollieren Sie beim Einsetzen des O-Rings, ob der O-Ring **weder verdreht noch gebogen ist und nicht aus der Nut heraussteht**.

(!) Kontrollieren Sie beide O-Ring, sowohl den vorderseitigen als auch den hinterseitigen.

(!) Gehen Sie bei der Wartung der O-Ringe besonders umsichtig vor, damit kein Fett auf das Objektivfenster und das LCD-Monitorfenster gerät. Jegliche Verschmutzungen auf dem Objektivfenster und dem LCD-Monitorfenster sind mit einem weichen, trockenen Tuch vorsichtig abzuwischen.

Hinweise zur richtigen Verwendung des Unterwassergehäuses

- Verwenden oder lagern Sie das Unterwassergehäuse nicht bei Temperaturen höher als +40 °C.
- Verwenden Sie das Unterwassergehäuse nicht in Wasser mit einer Temperatur von mehr als +40 °C, da es sonst zu Wassereintritt führen kann.
- Verwenden Sie weder Verdünnungsmittel noch Leichtbenzin, Alkohol oder andere flüchtige Chemikalien zur Reinigung. Falls Sie solche Chemikalien auf dem Unterwassergehäuse auftragen, kann es zu Beschädigung der Oberfläche bzw. zu Sprüngen unter hohem Druck führen.
- Vermeiden Sie übermäßige Kraftanwendung an der Stativgewinde.
- Setzen Sie das Unterwassergehäuse keinen Stößen oder Schlägen aus.
- Werfen Sie das Unterwassergehäuse nicht in das Wasser.
- Falls Sie das Unterwassergehäuse in Meerwasser verwendet haben, waschen Sie das Unterwassergehäuse noch gut verschlossen in einem Eimer mit Frischwasser ab, um das Salz zu entfernen. Trocknen Sie danach die Außenseite des Gehäuses mit einem trockenen, weichen Tuch.
- Dieses Produkt ist für die Verwendung im Wasser als Unterwassergehäuse konstruiert. Belassen Sie niemals die Kamera in diesem Produkt, wenn Sie dieses aufbewahren. Batterieflüssigkeit kann aus der Kamera austreten und ein Feuer verursachen.

■ Zur Vermeidung von Wassereintritt

Falls es zu Wassereintritt während der Verwendung des Unterwassergehäuses kommt, wird die Digitalkamera beschädigt, so dass sie nicht mehr repariert werden kann. Beachten Sie daher vor der Verwendung die folgenden Vorsichtsmaßregeln.

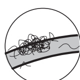
- Die normale Lebensdauer des O-Rings beträgt etwa ein Jahr, hängt aber von den Betriebsbedingungen ab. Wechseln Sie einmal jährlich den O-Ring gegen einen neuen aus.
- Alle am O-Ring anhaftenden Fremdkörper können einen Wassereintritt verursachen. Wischen Sie alle Fremdkörper ab und achten Sie dabei darauf, dass keine Flusen am O-Ring verbleiben. Falls ein Fremdkörper nicht leicht entfernt werden kann, versuchen Sie, den O-Ring mit Wasser abzuspülen.
- Falls der O-Ring Kratzer, Sprünge, Verfärbung oder Verformung aufweist, ersetzen Sie ihn durch einen neuen.
- Wenn Sie den O-Ring auswechseln, reinigen Sie zuerst die O-Ring-Nut und kontrollieren Sie, ab keine Sandkörner, Staub, Haare oder andere Fremdkörper vorhanden sind.
- Verwenden Sie für den O-Ring nur das Silikonfett der von FUJIFILM empfohlenen Marke.
- Falls der O-Ring nicht richtig eingesetzt ist, kann es zu Wassereintritt führen. Beim Einsetzen des O-Rings achten Sie darauf, dass er in der Nut liegen bleibt und sich nicht verdreht (S.23).
- Belassen Sie das Unterwassergehäuse im Sommer niemals in direktem Sonnenlicht, in einem geschlossenen Fahrzeug oder in der Nähe eines Heizgeräts. Legen Sie nicht langfristig externe Kräfte an das Unterwassergehäuse an. Verformungen durch Wärme oder Krafteinwirkung können eine Verschlechterung der Wasserdichtigkeit des Unterwassergehäuses bewirken und es für den Einsatz im Wasser unbrauchbar machen.
- Achten Sie darauf, dass der O-Ring oder dessen Kontaktfläche nicht durch Zusammenstoß beider Teile aufeinander oder durch eingeklemmte Fremdkörper (Sand, Staub oder Haare) beschädigt wird.

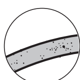
Hinweise zur richtigen Verwendung des Unterwassergehäuses

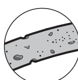
- Führen Sie eine Eintauch- und endgültige Prüfung durch, bevor Sie dieses Produkt verwenden.
- Falls Sie während des Fotografierens Anzeichen von Wassereintritt bemerken, nehmen Sie das Produkt sofort aus dem Wasser. Stellen Sie die Ursache fest und ergreifen Sie entsprechende Maßnahmen.

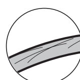
Beispiele von Fremdkörpern und Beschädigungen

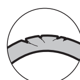

Haar


Fluse


Sand


Durch Fremdkörper verursachte Dellen


Kratzer


Sprünge

Technische Daten

Für den Gebrauch bestimmte Kamera	Digitalkamera FinePix Z100fd
Druckwiderstand	Bis zu 40 m unter Wasser
Hauptmaterial	Gehäuse: Transparentes Polycarbonat Objektivfenster: Gehärtetes Glas
Abmessungen (B × H × T)	128 mm × 91 mm × 60 mm (einschließlich Überstände)
Gewicht	ca. 247 g (ohne Kamera und Zubehör)

✻ Änderungen der Spezifikationen und Leistungsdaten sind ohne Vorankündigung vorbehalten. FUJIFILM kann für Schäden, die durch Fehler in dieser Bedienungsanleitung entstanden sind, nicht haftbar gemacht werden.

Sonderzubehör

- **Silikagel-Packungen (SST-01)**
  Trockenmittel zur Reduzierung von Kondenswasser auf dem Objektiv (Silikagel-Packung, 6 Stück)
- **O-Ring-Werkzeug (ORK-FXZ100)**
  Optionaler Reparatursatz (Ersatz-O-Ring (1 Stück), Ausbauwerkzeug zum Öffnen des Drehkopfes/O-Ring-Entferner (1 Stück))
- **Spezial-Silikonfett (SGR-01)**
  Spezial-Silikonfett für die Pflege des O-Rings (Spezial-Silikonfett, 1 Tube)

HINWEIS

DEUTSCH

Notas sobre seguridad

Gracias por haber comprado este producto.
Antes de utilizarlo, asegúrese de que lee este “Manual del usuario”, y especialmente estas “Notas sobre seguridad”, así como el “Manual del usuario” de su cámara digital. Después de leer estas notas de seguridad, guárdelas en un lugar seguro, con el fin de poder consultarlas con comodidad posteriormente.

■ Los símbolos que se muestran a continuación se utilizan para indicar la gravedad del daño o el peligro que puede suponer el no tener en cuenta la información indicada por el símbolo, o si el producto se utiliza incorrectamente.

 **ADVERTENCIA**	Este símbolo indica que, si se ignora la información, pueden producirse lesiones graves.
 **PRECAUCIÓN**	Este símbolo indica que, si se ignora la información, pueden producirse lesiones personales o daños a materiales.

■ Los símbolos que se reproducen a continuación se utilizan para indicar la naturaleza de las precauciones que deben observarse.

	Los símbolos triangulares indican al usuario una información que requiere su atención (“Importante”).
	Los símbolos circulares cruzados por una barra diagonal indican al usuario que la acción que se indica está prohibida (“Prohibido”).
	Los símbolos en negro con un signo de exclamación indican al usuario que tiene que realizar alguna acción (“Obligatorio”).

 **ADVERTENCIA**

 **No desmontar.**	**No intente modificar ni desmontar el producto.** Puede hacer que el agua se filtre.
	**No coloque el producto sobre una superficie inestable.** Si lo hace, el producto puede caerse o volcarse y causar daños o lesiones.
	**Utilice sólo la pila que se especifica para su uso con la cámara.** El uso de otra fuente de alimentación puede causar un incendio.
	**Use la pila sólo según lo especificado.** Cargue la pila según la indicación de polaridad.
	**No caliente, modifique ni intente desmontar la pila.** **No someta la pila a impactos fuertes ni la tire contra el suelo.** **No cortocircuite la pila.** **No almacene la pila junto a productos metálicos.** **Utilice sólo el modelo de cargador especificado para la pila.** Si no sigue cualquiera de las instrucciones anteriores, puede hacer que la pila explote o que se produzcan fugas en el líquido de la pila, y dar lugar a un incendio o a lesiones.



Mantenga fuera del alcance de los niños pequeños.
Este producto puede causar lesiones en manos de un niño.



Tenga cuidado cuando utilice la caja estanca con la correa acoplada.
Puede hacer que la caja se balancee inesperadamente, causando daños o lesiones.



No deje la caja estanca para la cámara expuesta a la luz directa del sol ni en lugares sometidos a temperaturas extremas.
Si la presión dentro de la caja subiera debido al calor, la tapa podría abrirse violentamente y causar daños o lesiones.



No ingiera el silicagel ni la grasa que se utilizan con este producto.
Si alguien se los introduce en la boca o se ingieren, busque un médico inmediatamente.



PRECAUCIÓN



No deje caer el producto ni lo golpee contra objetos duros.
Puede romper el producto y hacer que el agua se filtre dentro.



Cuando limpie la cámara o no tenga intención de utilizarla durante un tiempo prolongado, extraiga la pila.
Si no lo hiciera, podría producirse una pérdida en la pila u originarse un incendio.



No utilice el flash demasiado cerca de los ojos de una persona.
Puede afectar temporalmente a la vista. Tenga especial cuidado al fotografiar a niños pequeños.



No abra o cierre el producto en lugares con arena o polvo.
Si un grano de arena o una mota de polvo entrara en la junta tórica, puede hacer que el agua se filtre dentro.



No deje el producto en lugares sometidos a temperaturas extremadamente altas o bajas.
Puede originar su rotura.



Si la cámara se moja, quite inmediatamente la pila de la cámara.



No utilice el producto en profundidades que superen los 40 m bajo el agua.
Puede originar su rotura.

Contenido

Prefacio

- FUJIFILM Corporation no responderá en modo alguno de pérdidas accidentales (como costes fotográficos o pérdida de ingresos procedentes de la fotografía) como resultado de fallos en este producto.

■ Asegúrese de que lee estas indicaciones antes de utilizarlo

- Esta caja estanca está diseñada para su uso bajo el agua, hasta una profundidad de 40 m. Manipule la caja con cuidado.
- Rogamos siga las instrucciones de este manual respecto a la preparación la caja estanca para su uso, cómo hacer una prueba anticipada, cómo realizar el mantenimiento de la caja y cómo guardarla tras su uso. Utilice el producto sólo según se describe en este manual.
- FUJIFILM Corporation no responderá en modo alguno de cualquier daño sufrido por la cámara digital o cualquier pérdida causada por el uso inadecuado de la caja estanca.
- FUJIFILM Corporation no responderá en modo alguno de lesiones personales, muertes o daños materiales producidos durante el uso del producto.

Accesorios incluidos

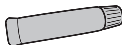
- **Correa muñequera (1)**



- **Extractor especial (1) (para abrir el tirador de cierre / extraer la junta tórica)**



- **Grasa especial para silicona (1)**



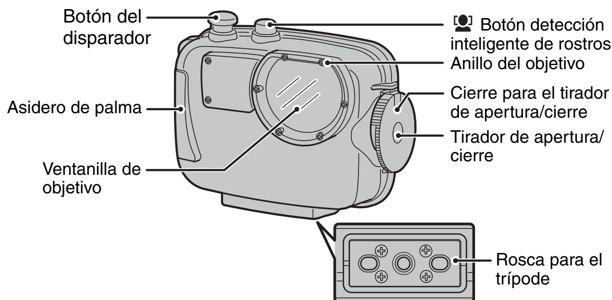
- **Manual del usuario (este manual)**
- **Guía de mantenimiento rápido**
- **Precauciones**

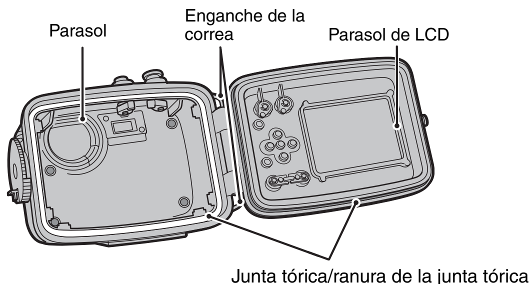
- **Paquete de silicagel (3)**

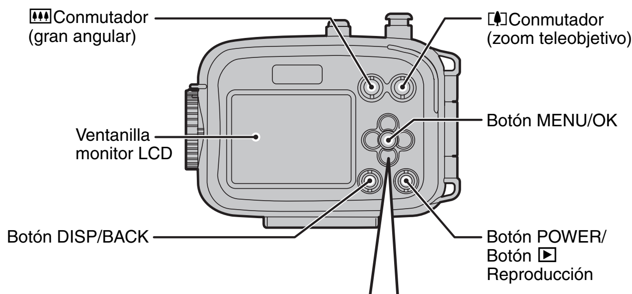


ESPAÑOL

Nombres de las partes







▲▼◀▶ Botón de 4 direcciones

[Fotografía]

◀/🌷 Botón macro

▶/⚡ Botón del flash

▲/((✋)) Botón de compensación de la exposición

▼/⏲ Botón autodisparador

[Reproducción]

▲/🗑 Botón borrar

- Las funciones de operación de la unidad corresponden a las operaciones individuales de la cámara. Consulte las funciones de la unidad en el “Manual del usuario” de su cámara digital.
- Al comprar la unidad, la ventana del monitor LCD viene protegida por una pelicula protectora. Asegurese de quitarla antes de comenzar a utilizar el producto.
- Al utilizar la función Comunicación IR, extraiga la cámara de la caja estanca. Si la cámara se encuentra en la caja estanca, no será posible utilizar la función Comunicación IR.

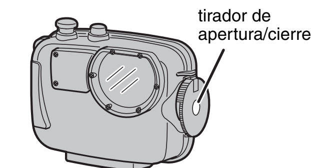
Comprobación previa de la caja

Realice una prueba de inmersión previa con la caja estanca, antes de poner en ella la cámara digital

Antes de instalar la cámara digital en la caja, compruebe que no hay ninguna filtración de agua.

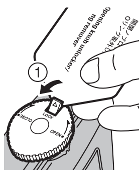
1 Compruebe el exterior de la caja estanca, para asegurarse de que no hay fisuras ni defectos en ella.

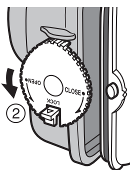
2 Abra la caja estanca, utilizando el extractor especial (incluido).





extractor especial (incluido)



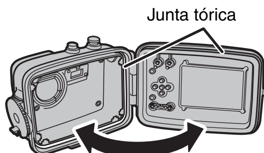


① Suelte el cierre del tirador de apertura/cierre.
② Gire el tirador de apertura/cierre en la dirección de la flecha “OPEN” para abrir la caja estanca.

Cuando abra la caja estanca, tenga cuidado para no pillarse los dedos o la palma de la mano con la caja estanca.

También puede utilizar el ajustador de la correa si no dispone del extractor especial (p. 15).

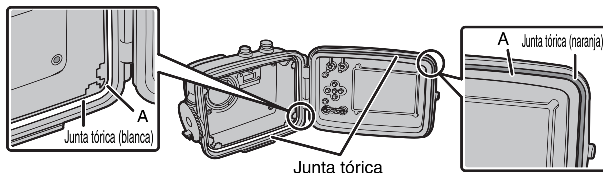
3 Compruebe lo siguiente en el interior de la caja estanca:



- Que no hay rajaduras (especialmente, alrededor de la junta tórica).
- Que la junta tórica esté correctamente asentada. (Para ver cómo se instala correctamente la junta tórica, consulte la p.23).
- Que la junta tórica no tiene arañazos ni rajaduras, ni una forma extraña, ni está retorcida o suelta, etc.
- Que no hay arena ni partículas extrañas adheridas a la junta tórica.

4 Limpie cualquier partícula extraña que haya quedado adherida a la junta tórica, así como la superficie de sellado de la junta tórica (posición fig. A), utilizando un trapo suave y que no suelte fibras, u otro utensilio similar.

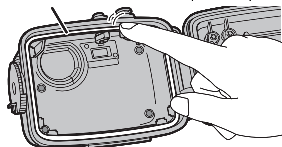
(!) Si utiliza un pañuelo de papel para limpiar, tenga cuidado, ya que puede dejar pequeñas fibras.



5 Compruebe la junta tórica instalada.

Compruebe la junta tórica delantera (blanca) instalada.
Inspeccione la junta tórica con la yema del dedo, para confirmar que no hay irregularidades. Si nota alguna, puede que la junta tórica esté retorcida. Vuelva a instalarla, siguiendo las instrucciones de la p. 23.

Junta tórica delantera (blanca)

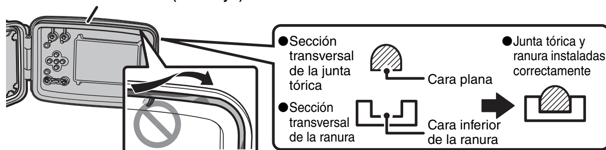


(!) Si la junta tórica está retorcida o estirada, o si hay alguna partícula extraña encima o debajo de ella, el agua se filtrará dentro de la caja.

Compruebe la junta tórica trasera (naranja) instalada.

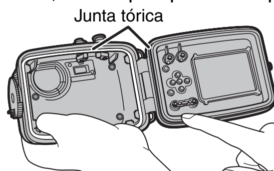
Si no está bien instalada, vuelva a instalarla, siguiendo las instrucciones de la p.24.

Junta tórica trasera (naranja)



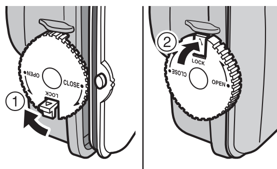
ESPAÑOL

6 Cuando todo esté correcto, con el dedo limpio, aplique la grasa especial para silicona. Extiéndala en la superficie de la junta tórica, hasta que quede completamente recubierta.



- Utilice sólo la grasa especial para silicona que se incluye.
- Una vez aplicada la grasa, compruebe que no hay arena ni otras sustancias pegadas a la junta tórica.

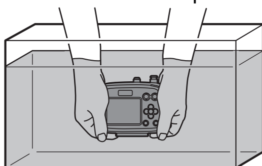
7 Cierre la caja estanca.



① Cierre la caja estanca y gire el tirador de apertura/cierre en la dirección de la flecha “CLOSE” para cerrarla herméticamente.
② Bloquee el tirador de apertura/ cierre.

- Cuando cierre la caja estanca, tenga cuidado para no pillarse los dedos o la palma de la mano con la caja estanca.

8 Introduzca la caja estanca vacía en un depósito o una bañera con agua, y compruebe si se producen filtraciones de agua. Consulte cómo comprobarlo en la p.13.



Si detecta una filtración de agua...

① Saque inmediatamente la caja estanca del agua, y seque su parte exterior.
② Asegúrese de que no hay rajaduras en el cuerpo de la caja estanca. Compruebe que en la junta tórica no hay partículas extrañas pegadas, desperfectos, rajaduras, defectos o torceduras, así como si hay partículas extrañas en la ranura de la junta tórica.
③ Cuando todo esté bien, vuelva a comenzar el procedimiento descrito en la p.8.

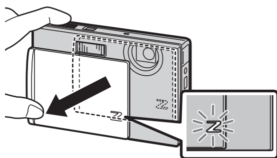
- Si encuentra que algo va mal con la caja estanca, deje inmediatamente de utilizarla y póngase en contacto con su distribuidor FUJIFILM.

Cómo colocar la cámara digital dentro de la caja estanca

Antes de comenzar la instalación, verifique los puntos siguientes:

- Para evitar quedarse sin carga cuando esté haciendo fotografías, cargue la pila por completo antes de utilizarla.
  Tiempos para la recarga completa de una pila totalmente vacía
  NP-45: aprox. 3 horas
- Compruebe cuántas imágenes nuevas pueden guardarse en el soporte de grabación.
- Quite la correa muñequera de la cámara digital. Si utiliza la cámara dentro de la caja estanca sin haber quitado la correa de la cámara, pueden producirse filtraciones en la caja.

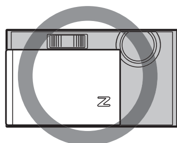
1 Conecte la cámara.

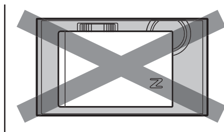


Abra la tapa del objetivo.

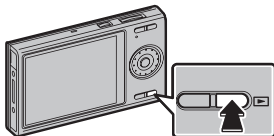
(!) Cuando abra la tapa del objetivo, tenga cuidado de no tocar el objetivo.

(!) Compruebe que la tapa del objetivo se ha abierto correctamente. De lo contrario, es posible que la alimentación de la cámara no se active.



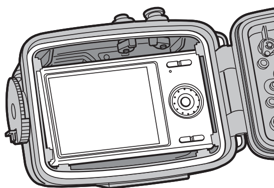


2 Apague la cámara.



Pulse el botón “POWER” y el botón ▶ Reproducción para cambiar al modo de reproducción y, a continuación, pulse el botón Reproducción durante unos instantes.

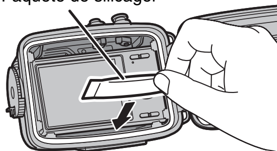
3 Abra la caja estanca (p. 8) e introduzca la cámara en ella.



Deslice la cámara dentro de la caja estanca, hasta que quede bien asentada.

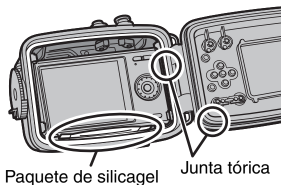
- (!) Cuando coloque la cámara en la carcasa sumergible, compruebe que la tapa del objetivo se ha abierto correctamente. Al cerrar la tapa del objetivo, podría producirse una filtración de agua. En estas condiciones, no es posible tomar fotografías debajo del agua.
- (!) Preste especial atención a la posición de la cámara al introducirla.

4 Inserte el paquete de silicagel en el espacio que hay bajo la parte inferior de la cámara.



- (!) Asegúrese de introducir correctamente el paquete de silicagel. Si no se introduce por completo, evitará que la junta tórica haga su función selladora, y el agua se filtrará dentro de la caja.

5 Asegúrese de lo siguiente, antes de cerrar la caja estanca.



- Ninguna parte del paquete de silicagel sobresale.
- No hay polvo, pelos ni otras partículas extrañas en la junta tórica ni en la ranura de la junta tórica, ni en la superficie del borde de la caja estanca que encaja con la junta tórica.
- La cámara está correctamente asentada y alineada en la caja estanca.

6 Cuando todo esté correcto, cierre la caja estanca (p.10).

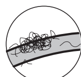
→ Compruebe que el botón “POWER” y el botón ▶ Reproducción de la cámara funcionan correctamente mediante los controles de la carcasa.

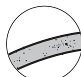
(!) Cuando cierre la caja estanca, tenga cuidado para no pillarse los dedos o la palma de la mano con la caja estanca.

Para evitar filtraciones de agua

Cualquier partícula extraña pegada a la junta tórica puede causar una filtración de agua. Quite las partículas extrañas (consulte la p.21). Si no puede quitarlas, sustituya la junta tórica por una nueva.


Pelo


Fibra


Arena

Cómo realizar una prueba final

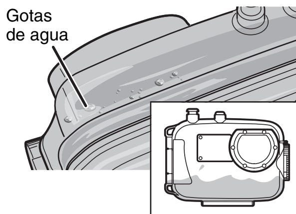
Realice una prueba de inmersión final con la caja estanca, después de montar la cámara digital. Para comprobar si hay filtraciones de agua, observe cualquier goteo de agua que entre, mientras introduce la caja en un depósito o una bañera llenos con agua. Realice la prueba de forma que pueda sacar la caja inmediatamente del agua (para proteger la cámara que está dentro), si fuera necesario.

1 Introdúzcala en el agua durante 30 segundos.



- Si ve un rastro continuo de burbujas de aire que salen de la junta de la caja estanca mientras está introducida en el agua, eso es señal de una filtración de agua.
- Si todo está correcto, manipule los botones y haga algunas fotografías de prueba con la caja debajo del agua.

2 Tras sacar lentamente la caja estanca del agua, compruebe con atención lo siguiente.



- Si hay gotas de agua cerca de la juntura de la caja estanca.
- Si hay algún charco de agua dentro de la caja estanca.

ESPAÑOL

Si detecta una filtración de agua...

① Saque inmediatamente la caja estanca del agua y seque su parte exterior.

② Extraiga la cámara digital de la caja estanca. Si ve gotas de agua en la cámara digital, séquelas inmediatamente.

> (!) Cuando extraiga la cámara de la caja estanca, abra la caja estanca con el objetivo orientado hacia abajo para evitar que se caiga la cámara. Asimismo, cuando abra la caja estanca, tenga cuidado para no pillarse los dedos o la palma de la mano con la caja estanca.

③ Asegúrese de que no hay rajaduras en el cuerpo de la caja estanca. Compruebe que en la junta tórica no hay partículas extrañas pegadas, defectos, rajaduras, deformaciones o torceduras, así como si hay partículas extrañas en la ranura de la junta tórica.

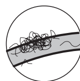
④ Cuando todo esté bien, vuelva a comenzar el procedimiento descrito en la p.8.

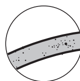
> (!) Si encuentra que algo va mal con la caja estanca, deje inmediatamente de utilizarla y póngase en contacto con su distribuidor FUJIFILM.

> (!) Si entró agua en el cuerpo de la cámara, no la vuelva a utilizar y póngase en contacto con su distribuidor FUJIFILM. Si utiliza la cámara en un estado defectuoso puede causar un incendio o una descarga eléctrica. No la utilice en este estado, bajo ninguna circunstancia.

Cualquier clase de partícula extraña pegada a la junta tórica puede causar una filtración de agua. Quite las partículas extrañas después de comprobar cómo se hace, en la p.21

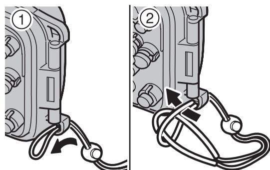

Pelo


Fibra


Arena

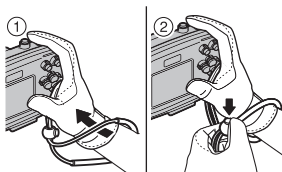
Cómo acoplar la correa

1 Acople la correa a la caja estanca.



Acople la correa a la caja estanca, tal y como se muestra en ① y ②.

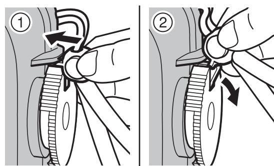
2 Ajuste la correa muñequera alrededor de la muñeca.



① Pase su mano y su muñeca a través de la correa muñequera.
② Para reducir el riesgo de que se caiga la cámara, ajuste la correa alrededor de la muñeca, mediante el ajustador.

Apertura de la caja estanca con el ajustador de la correa

Al abrir la caja estanca, puede utilizar también el ajustador de la correa si no dispone del extractor especial.



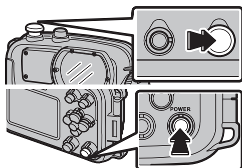
① Inserte la pestaña del ajustador tal como se muestra en la ilustración.
② Suelte el cierre del tirador de apertura/cierre.

(!) No utilice el ajustador de la correa para soltar la junta tórica. Podrían producirse filtraciones de agua si se daña la junta tórica o si se contamina con partículas extrañas.

Cómo hacer fotos

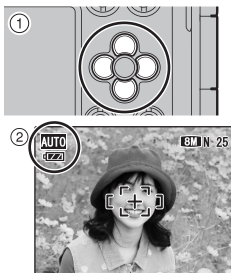
- Con la caja estanca, puede hacer fotografías hasta 40 m debajo del agua.
- Las funciones de operación de la unidad corresponden a las operaciones individuales de la cámara. Si desea ver instrucciones de operación o funciones de la cámara, consulte el manual del usuario que viene con su cámara.

1 Conecte la cámara.



Pulse el botón “POWER” o el botón ▶ Reproducción y, a continuación, pulse el disparador.

2 Seleccione el modo fotografía.



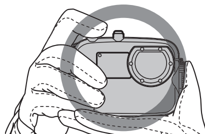
① Pulse el botón de 4 direcciones para ajustar el modo fotografía.
② Compruebe el modo fotografía en la ventana del monitor LCD.

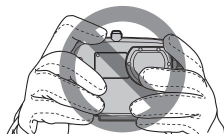
Haga una fotografía de prueba, antes de utilizar bajo el agua la cámara protegida.

(!) Al ajustar el modo fotografía mediante el botón de 4 direcciones de la carcasa sumergible, compruebe que la indicación de modo aparece en el monitor LCD.

3 Sostenga la caja estanca firmemente con ambas manos.

(!) Sostenga la cámara, de forma que los dedos o la correa no cubran el objetivo ni el flash. Si el objetivo o flash estuviesen tapados, el sujeto podría quedar desenfocado o la luminosidad (exposición) de la toma podría resultar incorrecta.





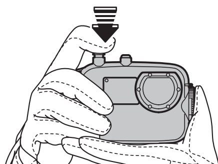
4 Tome las fotografías.

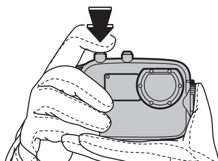
① Pulse hacia abajo la palanca del disparador, hasta la mitad del recorrido, para enfocar.

② Pulse hacia abajo la palanca del disparador, hasta el fondo, para tomar la fotografía.

(!) Si pulsa el disparador ligeramente, notará un leve punto de detención denominado punto intermedio. El enfoque y el brillo se determinan al pulsar este botón hasta dicho punto.

(!) No es posible pulsar a medias la palanca del disparador cuando se graba vídeo.





Acerca del modo SUBMARINO



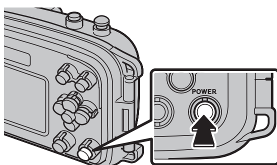
Ajuste el modo fotografía del menú a "🐟 SUBMARINO". Los azules del fondo salen más vivos en la fotografía.

(!) Para obtener más información, consulte el manual del usuario de su cámara.

ESPAÑOL

Después de la toma fotográfica (almacenamiento)

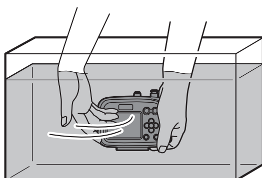
1 Apague la cámara.



Pulse el botón “POWER” y el botón ▶ Reproducción para cambiar al modo de reproducción y, a continuación, pulse el botón Reproducción durante unos instantes.

(!) Asegúrese de que la cámara está desconectada.

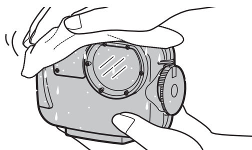
2 Cuando termine de hacer fotografías, **llene** inmediatamente un contenedor **con agua del grifo** para eliminar la sal dejada por el agua del mar.



Enjuague bien el exterior de la caja estanca, sacudiendo el agua con la mano.

(!) Si quedara algo de sal en la caja, podría causar corrosión, mal funcionamiento local y otros problemas.

3 Quite cuidadosamente las gotas de agua de la caja estanca.

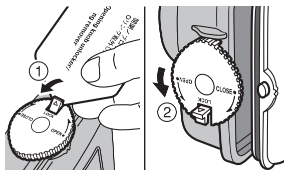


Especialmente, quite con cuidado las gotas que haya en la junta de la caja estanca.

(!) Utilice un trapo suave y que no suelte fibras, o un utensilio parecido.

(!) Retire las gotas de agua que queden bajo la palanca del disparador, el tirador de apertura/cierre y otras piezas.

4 Extraiga la cámara de la caja estanca.

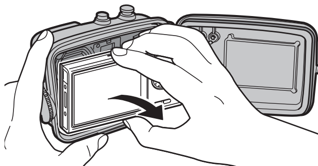




① Suelte el cierre del tirador de apertura/cierre.

② Gire el tirador de apertura/cierre en la dirección de la flecha “OPEN” para abrir la caja estanca. Ábrala lentamente, de forma que el agua no caiga en la cámara que está dentro.

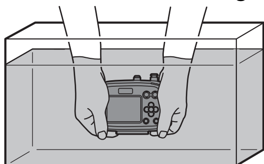
- (!) Antes de abrir la caja estanca, asegúrese de que sus manos y pelo están secos y que no goteará agua sobre la cámara, ni dentro de la caja estanca.
- (!) Cuando abra la caja estanca, tenga cuidado para no pillarse los dedos o la palma de la mano con la caja estanca.
- (!) Si sus manos están mojadas, asegúrese de no tocar la cámara ni la pila.
- (!) No abra la caja estanca en lugares en los que el interior pueda llenarse de arena o mojarse.



③ Extraiga la cámara de la caja estanca.

- (!) Cuando extraiga la cámara de la caja estanca, abra la caja estanca con el objetivo orientado hacia abajo para evitar que se caiga la cámara.

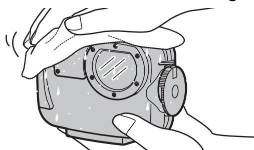
5 Con la cámara desmontada, asegúrese de que no quedan gotas de agua ni partículas extrañas en la junta tórica, cierre la caja estanca y gire el tirador de apertura/cierre en la dirección de la flecha "CLOSE" para cerrarla herméticamente. **Lávela cuidadosamente con agua del grifo una vez más.**



Intente eliminar cualquier residuo de sal, moviendo ligeramente los diversos botones, debajo del agua. Recomendamos que sumerja la caja estanca en agua limpia durante, aproximadamente, 1 hora.

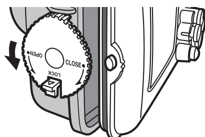
- Si la caja se guarda con restos de agua salada, los cristales de sal obturarán el movimiento del tirador de apertura/cierre y de otras partes. También puede producirse corrosión.
- Cuando cierre la caja estanca, tenga cuidado para no pillarse los dedos o la palma de la mano con la caja estanca.

6 Quite cuidadosamente las gotas de agua de la caja estanca.



- Utilice un trapo suave y que no suelte fibras, o un utensilio parecido.
- Retire las gotas de agua que queden bajo la palanca del disparador, el tirador de apertura/cierre y otras piezas.

7 Abra ligeramente la caja estanca y séquela en un lugar aireado, resguardada de la luz directa del sol. Tras secar la caja, guárdela donde no quede directamente expuesta a la luz del sol.



- No utilice un secador de pelo, aire caliente o luz directa del sol para secar la caja estanca.

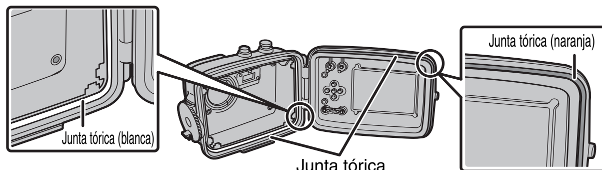
Si la caja estanca no se va a utilizar durante un largo período de tiempo, quite la junta tórica y guarde la caja estanca en un lugar seguro. Para ver cómo se retira la junta tórica, consulte la p.21.

Mantenimiento

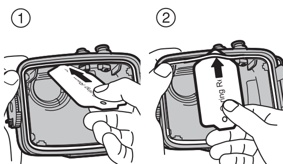
Mantenimiento después del uso

Haga esto siempre inmediatamente después de utilizar la caja estanca. Compruebe que la junta tórica no tiene muescas ni defectos causados por partículas extrañas, rajaduras ni otros daños.

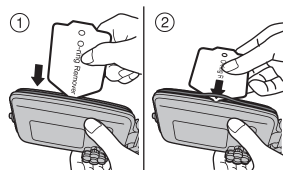
1 Retire la junta tórica de la caja estanca.



Junta tórica delantera (blanca)

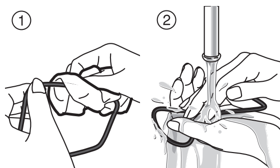


Junta tórica trasera (naranja)



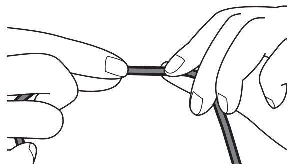
① Introduzca el extractor especial entre la junta tórica y la ranura de la junta tórica.
② Introduzca la punta del extractor especial debajo de la junta tórica. Tenga cuidado de no arañar la ranura con la punta del extractor.
③ Cuando la junta tórica salga de la ranura, sujétela con los dedos y sáquela de la caja estanca.

2 Limpie la junta tórica de restos de grasa y partículas extrañas, como fibras y arena.



① Retire las partículas extrañas con un trapo suave y que no suelte fibras.
② Seque la junta tórica enjuagada, sin volver a echar agua. Esto es para evitar que quede adherida alguna fibra.

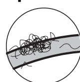
3 Sujete la junta tórica con los dedos y tóquela con cuidado en toda su extensión, ejerciendo sólo una ligera presión, para comprobar que no haya muescas ni defectos causados por partículas extrañas, ni rajaduras debidas al desgaste (se pueden sentir con las puntas de los dedos).

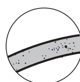


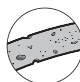
(!) Al presionar con los dedos y deslizarlos por la junta tórica, tenga cuidado de no estirarla tirando demasiado fuerte de ella.

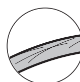
Ejemplos de partículas extrañas y de daños

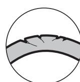

Pelo


Fibra

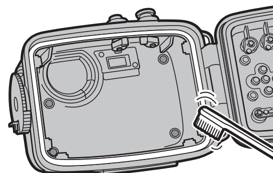

Arena


Muescas causadas por partículas extrañas


Deterioro

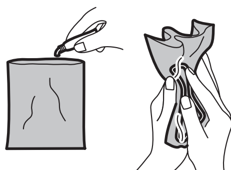

Rajadura

4 Quite todas las partículas extrañas de la ranura de la junta tórica, utilizando un cepillo de dientes o un bastoncillo algodonado.



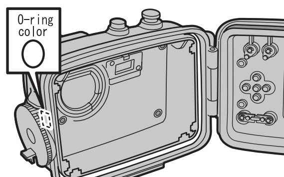
Cerciórese de que no quedan fibras sueltas del bastoncillo algodonado.

5 Recubra la junta tórica con la grasa especial.

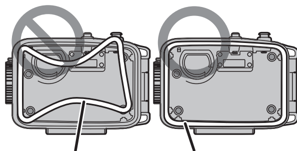


Para aplicar una capa uniforme y fina de grasa para silicona a la junta tórica, extraiga unos 5 mm de grasa del tubo que viene con el producto, depositando la grasa en una bolsa de plástica limpia (de un tamaño aproximado de 10 cm × 20 cm) y después extiéndala concienzudamente. Ponga la junta tórica en la bolsa de plástico y remuévala hasta que la junta tórica quede completamente cubierta de grasa. La bolsa de plástico se puede utilizar más de una vez, si se conserva limpia.

6 Instale la junta tórica delantera (blanca).



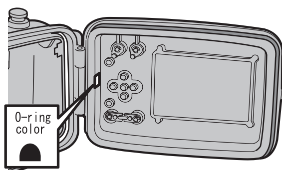
Para una correcta instalación, observe el adhesivo (blanca) que hay fuera de la caja estanca.



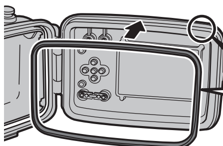
Antes, ponga la junta tórica delantera sobre la caja estanca, para asegurarse de que la junta tórica no está retorcida.
Si no está retorcida, asegúrese de que está limpia, sin partículas extrañas incrustadas ni polvo adherido, antes de instalarla.

ESPAÑOL

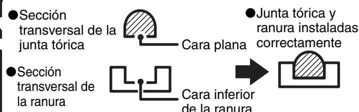
7 Instale la junta tórica trasera (naranja).

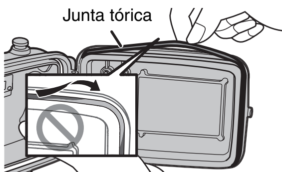


Para una correcta instalación, observe el adhesivo (naranja) que hay fuera de la caja estanca.



Haga coincidir la superficie plana de la junta tórica con la cara inferior de la ranura.





Cuando instale la junta tórica, compruebe que no está **torcida ni doblada, y que no sobresalga de la ranura.**

Compruebe las juntas tóricas delantera y trasera.

Cuando lleve a cabo el mantenimiento en las juntas tóricas, ponga especial cuidado para evitar que caiga grasa en la ventana del objetivo y en la ventana del monitor LCD. Si hay suciedad en la ventana del objetivo o en la ventana del monitor LCD, retírela con cuidado con un trapo suave y seco.

Notas acerca de cómo utilizar correctamente la caja estanca

- No utilice ni guarde la caja estanca a temperaturas que superen los +40 °C.
- No la utilice en agua a temperatura superior a +40 °C, ya que podrían producirse filtraciones.
- No utilice disolventes, benzina, alcohol ni otros productos químicos volátiles para la limpieza. Si aplica esos productos químicos a la caja estanca, puede ocasionar daños en su superficie y se agrietará cuando esté bajo altas presiones.
- No fuerce la rosca para el trípode.
- No golpee la caja estanca ni la someta a impactos.
- No arroje la caja estanca al agua.
- Cuando utilice la caja estanca en agua de mar, lávela después, todavía perfectamente cerrada, en un cubo de agua pura para eliminar por completo la sal. A continuación, seque el exterior de la caja, utilizando un paño seco y suave.
- Este producto está diseñado para su uso bajo el agua, como caja estanca. No la deje ni guarde con la cámara todavía dentro: la pila puede tener fugas o incluso causar un incendio.

■ Para evitar filtraciones de agua

Si esta caja tiene filtraciones durante su uso y la cámara digital que va dentro se moja, la cámara no se puede reparar. Tome las siguientes precauciones antes de usarla.

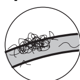
- La vida estándar de la junta tórica es de alrededor de un año, aunque depende de las condiciones de funcionamiento. Sustituya la junta tórica por una nueva, una vez al año.
- Cualquier partícula extraña adherida a la junta tórica puede causar una filtración de agua. Elimínelas con un paño, asegurándose de que no quedan restos de fibras pegados a la junta tórica. Si una partícula extraña no se puede quitar fácilmente, pruebe a quitarla con agua.
- Si la junta tórica se araña, agrieta, decolora o deforma, sustitúyala por una nueva.
- Al sustituir la junta tórica, primero limpie la ranura de la junta tórica y compruebe que está libre de granos de arena, polvo, pelo y otras partículas extrañas.
- Para la junta tórica, utilice grasa para silicona de la marca recomendada por FUJIFILM.
- Si la junta tórica no está correctamente asentada, puede producirse una filtración de agua. Cuando monte la junta tórica, asegúrese de que se fija en la ranura y de que no se retuerce (p.23).
- No deje la caja estanca expuesta a la luz directa del sol en verano, ni en un vehículo cerrado, ni cerca de un aparato calefactor. No aplique una fuerza externa de larga duración a la caja estanca. La deformación causada por el calor o la fuerza puede dar lugar a la pérdida de impermeabilidad, inutilizándola para ser usada bajo el agua.
- Tenga cuidado de no dañar la junta tórica ni la superficie en contacto con ella, apretándolas en exceso una contra otra, o dejando que partículas extrañas (arena, polvo o pelo) se metan entre ellas.

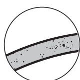
Notas acerca de cómo utilizar correctamente la caja estanca

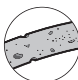
- Lleve a cabo la prueba de inmersión y la prueba final antes de utilizar el producto.
- Si advierte señales de filtración de agua mientras toma fotografías, saque el producto inmediatamente del agua. Busque la causa y haga lo que corresponda.

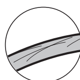
Ejemplos de partículas extrañas y de daños

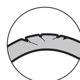

Pelo


Fibra


Arena


Muescas causadas por partículas extrañas


Deterioro


Rajadura

Especificaciones

Cámara con la que debe ser utilizada	Cámara digital FinePix Z100fd
Resistencia a la presión	Hasta 40 m de profundidad bajo el agua
Materiales principales	Cuerpo de la caja: Policarbonato transparente Ventanilla de objetivo: Vidrio templado
Dimensiones (ancho × altura × profundidad)	128 mm × 91 mm × 60 mm (incluidas las partes salientes)
Peso	Aprox. 247 g (no incluye la cámara y los accesorios)

✻ Estas especificaciones están sujetas a cambio sin previo aviso. FUJIFILM no se hará responsable de ningún daño resultante de posibles errores en este Manual del usuario.

Guía de accesorios

- **Juego de paquetes de silicagel (SST-01)**
  Agente desecante para la reducción del desenfoque del objetivo (Paquete de silicagel x 6)
- **Kit de junta tórica (ORK-FXZ100)**
  Kit opcional de mantenimiento (Junta tórica de repuesto x 1, extractor especial para abrir el tirador de cierre/extraer la junta tórica x 1)
- **Grasa especial para silicona (SGR-01)**
  Grasa especial para silicona para el mantenimiento de la junta tórica (Grasa especial para silicona x 1)

Recordatorio

ESPAÑOL

Recordatorio

製品保証規定

1. 保証期間内に正常な使用状態（使用説明書、注意書に従った使用状態）で故障した場合には、弊社またはお買上げ店にて無料修理いたします。

2. 無料修理を受ける場合は、商品と本書をご提示の上、弊社またはお買上げ店に依頼してください。なお、お届けいただく際の運賃などの諸費用は、お客様でご負担願います。

3. ご贈答品、ご転居後の修理については、弊社にご相談ください。

4. 保証期間内でも、次の場合には有料修理になります。
   (1) 業務用の長時間使用、車両、船舶などへ搭載して使用された場合の故障、損傷、および消耗部分を交換した場合。
   (2) 修理ご依頼の際、保証書の提示または添付のないもの。
   (3) 保証書にお名前、お買上げ日、お買上げ店名の記載がない場合あるいは、これらの字句を書き換えられた場合。
   (4) 使用上の誤りおよび弊社以外での修理、調整による故障および損傷。
   (5) お買上げ後の、落下、衝撃、砂、泥かぶり、冠水、浸水などによる故障および損傷。
   (6) 火災、地震、水害、落雷、その他の天災地変、公害や異常電圧による故障および損傷。
   (7) 故障の原因が本製品以外（電源、他の機器など）にあって、修理した場合。
   (8) 上記以外で弊社の責に帰すことのできない原因により生じた故障。

5. この保証書は、日本国内でのみ有効です。

6. この保証書は再発行いたしませんので大切に保存してください。

※ この保証書は本書に明示した期間、条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。したがって、この保証書によってお客様の法律上の権利を制限するものではありません。

※ 修理、アフターサービスに関する事項については、本書の「アフターサービスについて」の項をご覧ください。

FUJIFILM

保証書

<table>
<tr><td colspan="2">型名</td><td>WP-FXZ100</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">保証期間</td><td>本体　1年</td></tr>
<tr><td></td></tr>
<tr><td rowspan="3">お客様</td><td>ご住所</td><td>□□□ −□□□□</td></tr>
<tr><td>お名前</td><td>様</td></tr>
<tr><td>電話</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">お買上げ店</td><td>住所・店名</td><td>印</td></tr>
<tr><td>電話</td><td></td></tr>
<tr><td colspan="2">お買上げ日</td><td></td></tr>
</table>

本書は、本書記載内容で無料修理を行うことをお約束するものです。修理ご依頼の際には、商品と本書を弊社もしくはお買上げ店にご持参ください。

- **使いかたのお問い合わせ**：
  FinePixサポートセンター　TEL. 0570-00-1060
  月曜日〜金曜日 午前9:00 〜午後5:40　土曜日 午前10:00 〜午後5:00
  日・祝日・年末年始を除く
- **修理のお問い合わせ**：
  富士フイルム修理サービスセンター　TEL. 0570-00-0081（ナビダイヤル）
  PHS・IP電話・NTT以外の固定電話など、ナビダイヤルをご利用いただけない場合は　TEL. 0228-35-3586
  月曜日〜金曜日 午前9:00 〜午後5:40　土曜日 午前10:00 〜午後5:00
  日・祝日・年末年始を除く

This warranty is valid only in JAPAN.

富士フイルム株式会社
〒107-0052 東京都港区赤坂9丁目7番3号

FUJIFILM Corporation
7-3, AKASAKA 9-CHOME, MINATO-KU, TOKYO 107-0052, JAPAN

Printed in China　Y-709108